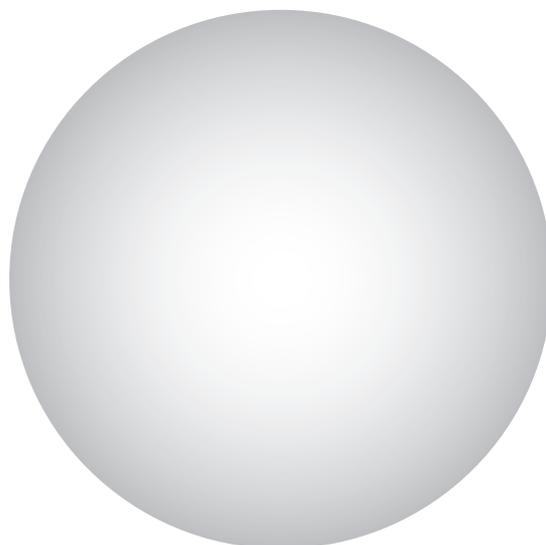
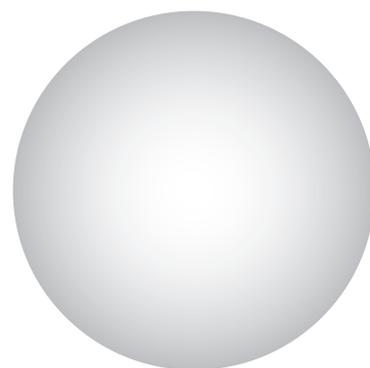


**平成 27 年度
港南区区民意識調査
結果報告書 概要版**



まえがき・目次

まえがき

港南区役所では、区民の皆様のご意見を活かした区政運営をすすめるため、区民意識調査を隔年で実施しています。今回は、生活環境や地域活動のほか、防災や健康づくりに対する意識や行動、さらに区政へのニーズ等をお尋ねしました。

区民意識調査の結果は、区政運営にあたっての基礎的データとして活用していきます。

調査にご協力いただきました区民の皆様に、心よりお礼申し上げます。

平成28年 1月 港南区長

目次

I 調査の概要

- 調査概要 2
- 回答者属性（性別、年齢、職業、世帯構成、居住年数） 3
- 定住意向 4

II 区民意識調査結果の概要

- 1 生活環境全般 6
- 2 地域でのつきあい 7
- 3 地域活動
 - － 地域活動 参加経験・参加意向・充実すべき活動の重要度 8
 - － 地域活動 参加のきっかけ 9
 - － 地域活動 参加条件 10
 - － 地域コミュニティ 困り事や心配事 11
 - － 地域コミュニティ 強化が必要な点 12
- 4 大地震などの災害に備えた対策
 - － 災害への対策 13
 - － 災害に備え自治会町内会がすすめるべき取組 14
 - － 地域防災訓練への参加有無/不参加理由 15
 - － 地域活動への参加状況別 地域の防災訓練への参加状況 16
 - － 参加してみたい防災訓練 17
 - － いっつき避難場所と地域防災拠点の認知 18
- 5 健康づくり
 - － 普段取り組んでいる運動/運動頻度/1日の平均歩数 19
 - － がん検診の受診有無 20
- 6 環境対策
 - － ゴミの減量化・温暖化対策に向けた家庭での普段の取組 21
- 7 区政運営
 - － 港南区が短期的に取り組むべき区政運営 22
 - － 区の将来像 23
- 8 資料編（地域別集計の概要） 24

I 調査概要 — 調査概要

【調査目的】

- 区民の皆さまの生活環境に対する意識や日常の行動、区政へのニーズ等を把握し、今後の区政運営に役立てることを目的としています。

【調査概要】

調査対象：港南区民3,000人

(満20歳以上の区内在住者、外国籍区民30人を含む)

抽出方法：住民基本台帳等から無作為抽出

有効回収数・回収率：1,694票（回収率56%）

調査期間：平成27年6月18日～7月17日

調査方法：郵送による配布・回収

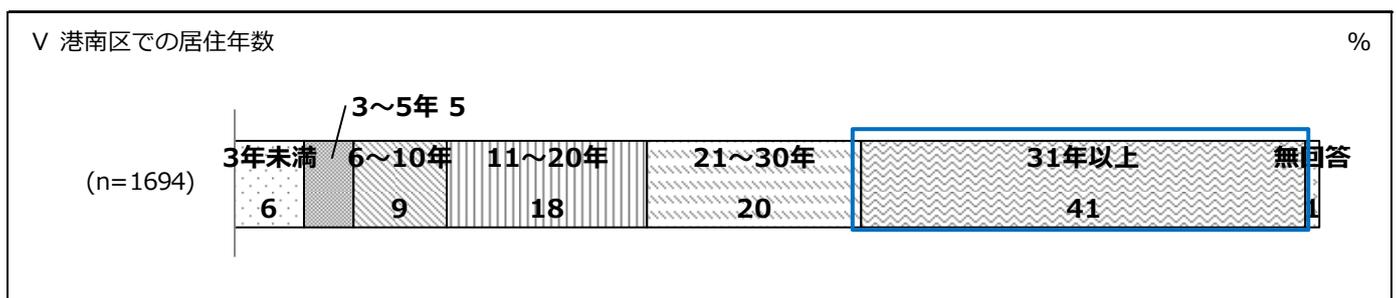
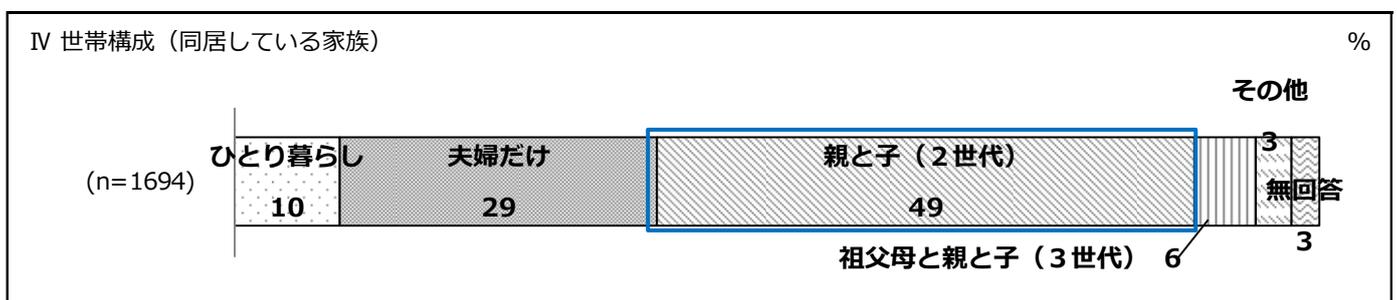
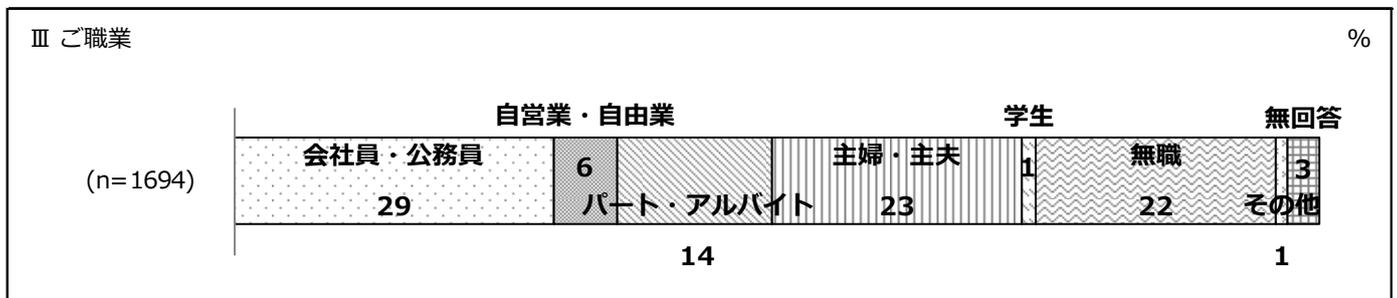
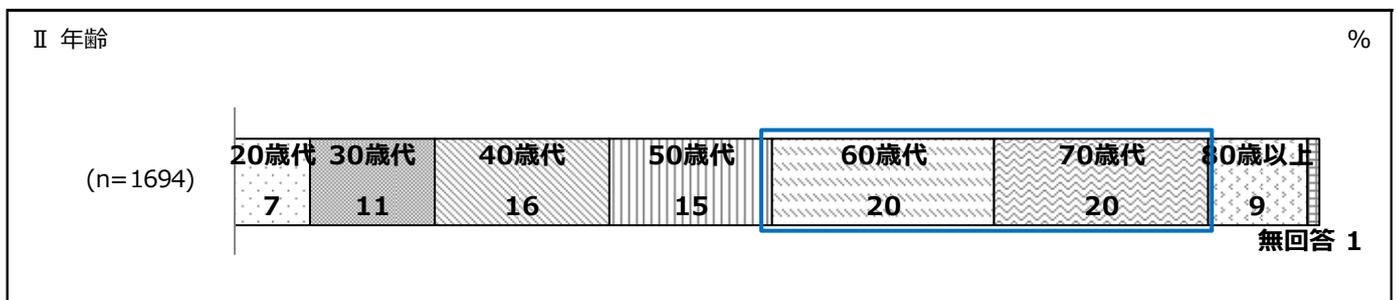
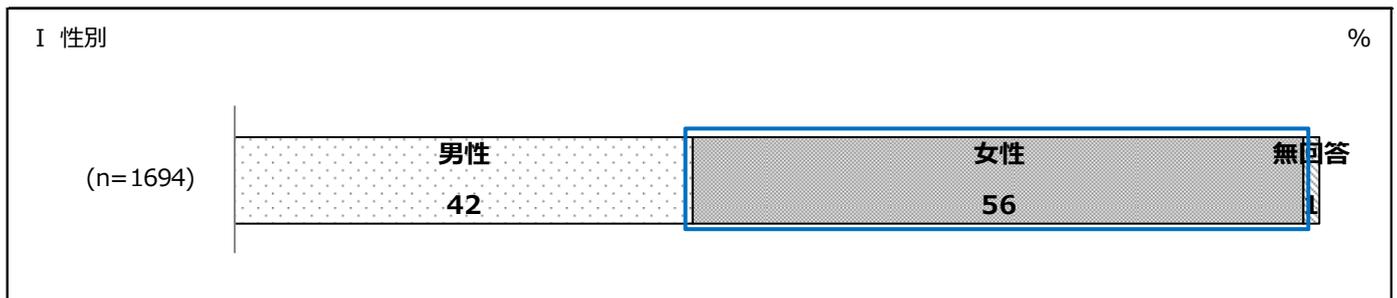
【集計結果の見方】

- 図（グラフ）の中で使用されているアルファベットnは、その設間に対する回答者数をあらわします。
- 回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設間の回答者数を基数（件数）として算出しています。したがって、複数回答の設間の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合があります。また、単一回答の設間の場合には、小数点以下を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。
- グラフ内のH27は平成27年度、H25は平成25年度、H23は平成23年度の数値を示します。

I 調査概要 — 回答者属性

【回答者属性の特徴】

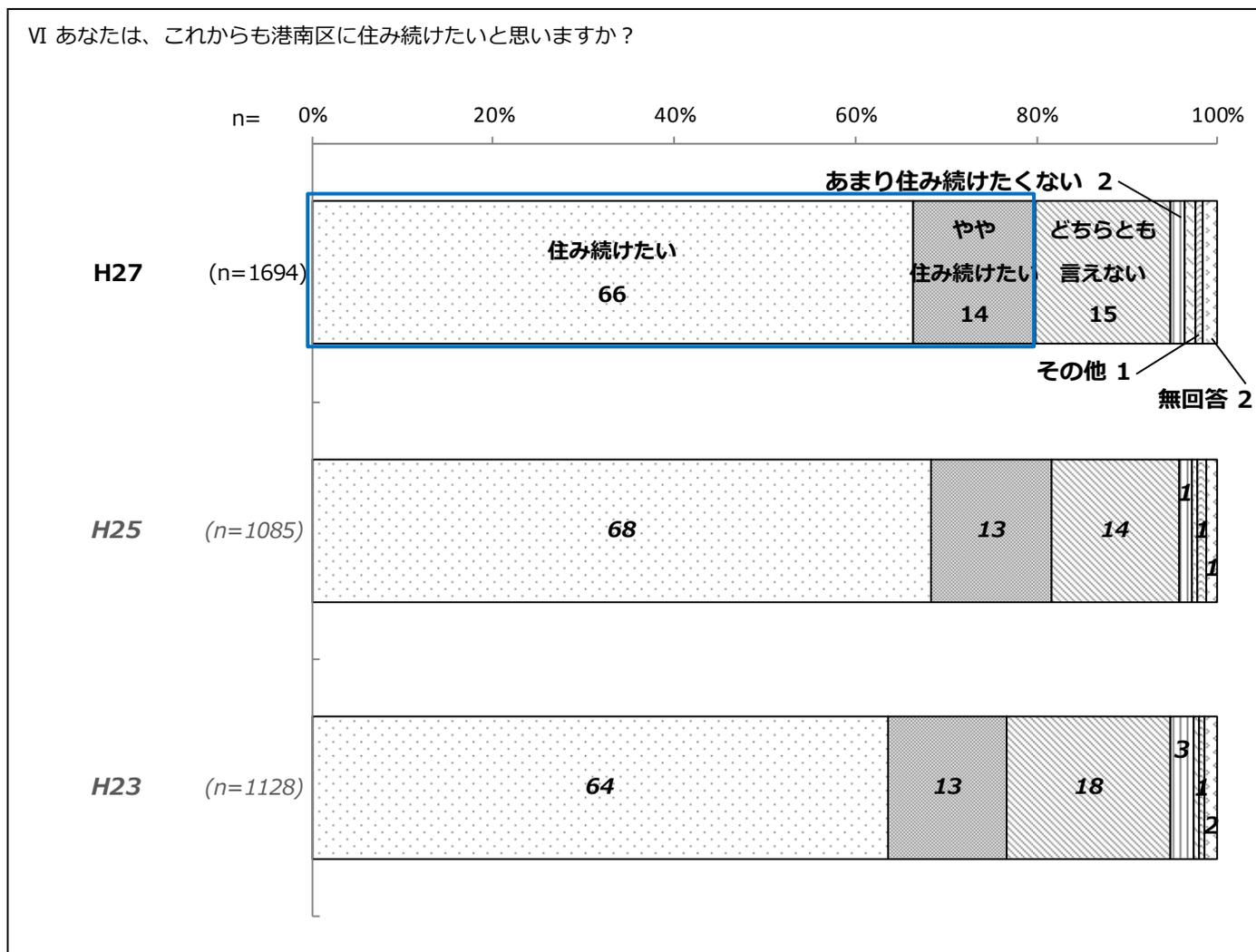
- 女性が56%と過半数を超えています。
- 年代別にみると、60歳代と70歳代の方の回答が多く、60歳代以上の回答が約半数を占めています。
- 世帯構成は、親と子（2世代）が49%と最も多く占めています。
- 港南区の居住年数は、「31年以上」が最も多く、約4割を占めています。11年以上が79%と居住年数の長い方が多いです。



I 調査概要 — 定住意向

【定住意向】

- 80%が定住意向を示し、高い意向を維持しています。（「住み続けたい」+「やや住み続けたい」の合計）



II 区民意識調査結果の概要

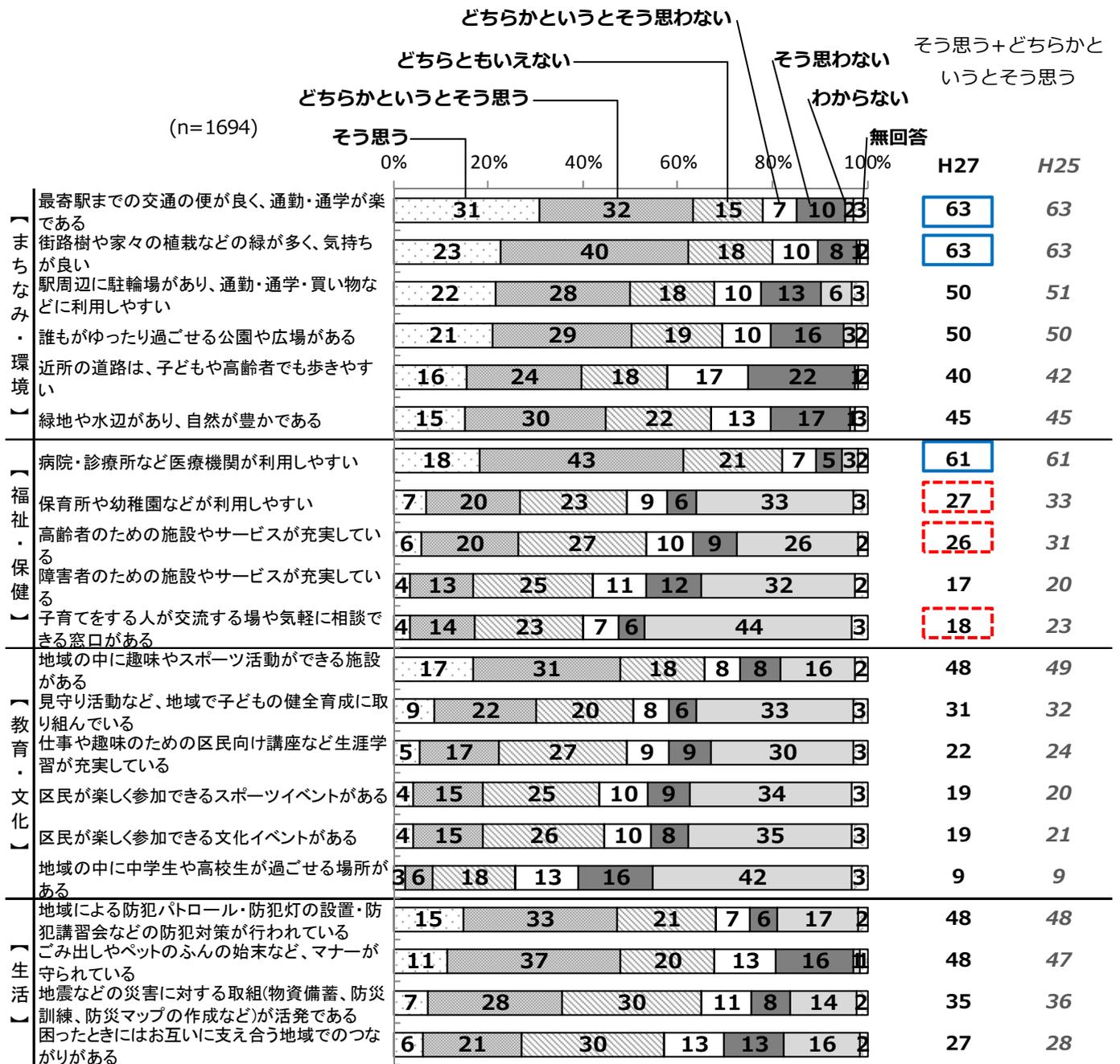
1 生活環境全般

【生活環境全般】

- 「そう思う」+「どちらかというと思う」の割合をみると、平成25年度から引き続き、最寄駅までの交通の便の良さ、緑が多い環境、医療機関の利便性が高く評価されています。
- 一方で、保育園/幼稚園の利便性、高齢者向け施設・サービスの充実、子育てをする人の交流の場・相談先の評価が平成25年度よりも5ポイント以上低下しています。

問1 あなたは、お住まいの地域についてどのように感じていますか？

次の(1)~(21)の項目それぞれについて、「1 そう思う」から「6 わからない」の中から1つを選び、あてはまる数字に○をつけてください。

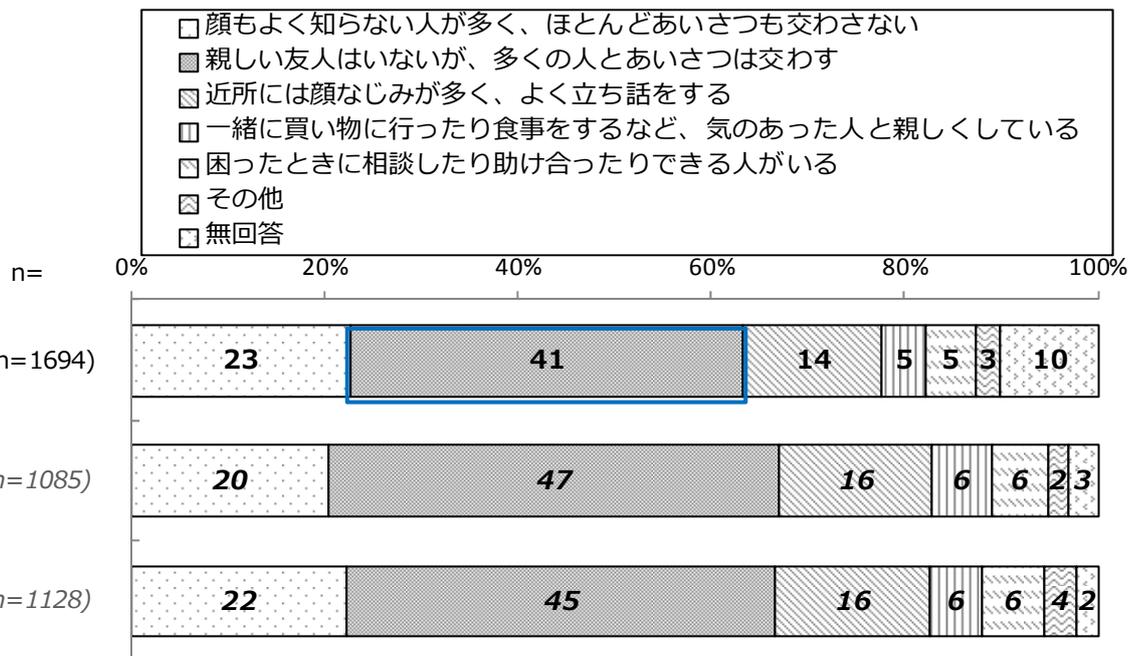


2 地域でのつきあい

【居住地域 つきあい方】

- 「親しい友人はいないが、多くの人とあいさつは交わす」が最も多く、約4割を占めています。次いで、「顔もよく知らない人が多く、ほとんどあいさつも交わさない」が約2割を占めています。
- 「親しい友人はいないが、多くの人とあいさつは交わす」は平成25年度から6ポイント低下しています。

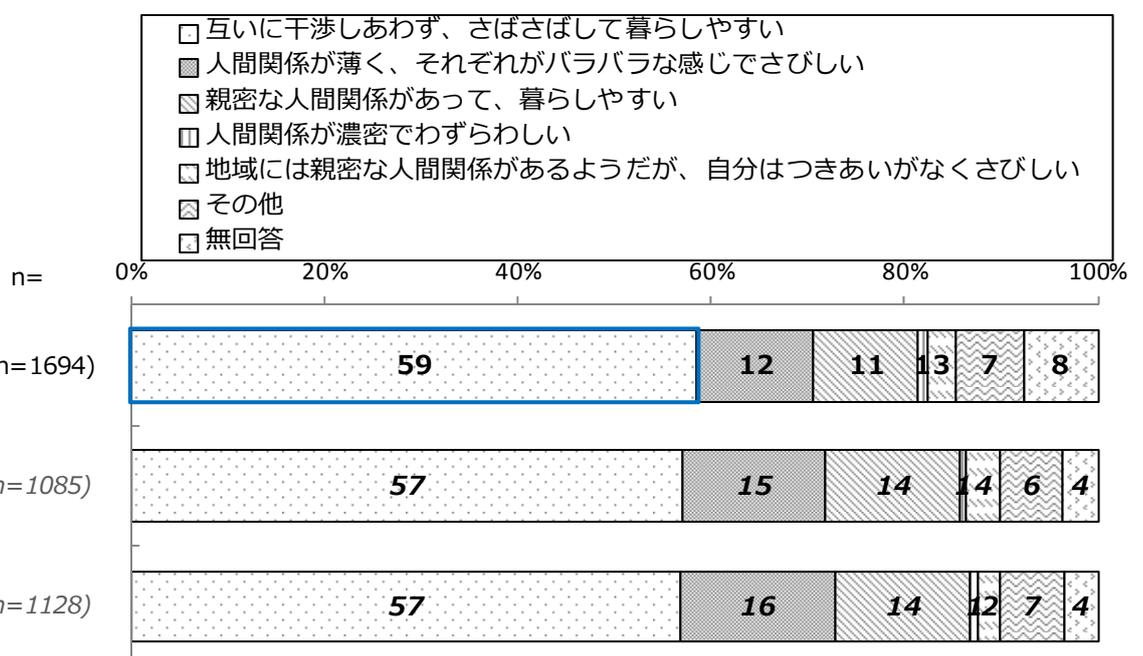
問7 あなたは、お住まいの地域の方々と普段どのようなつきあいをしていますか？



【居住地域 つきあいの感じ方】

- 「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が6割弱を占めます。
- 平成25年度から大きな変化は見られません。

問8 あなたは、お住まいの地域でのつきあいをどのように感じていますか？



3 地域活動

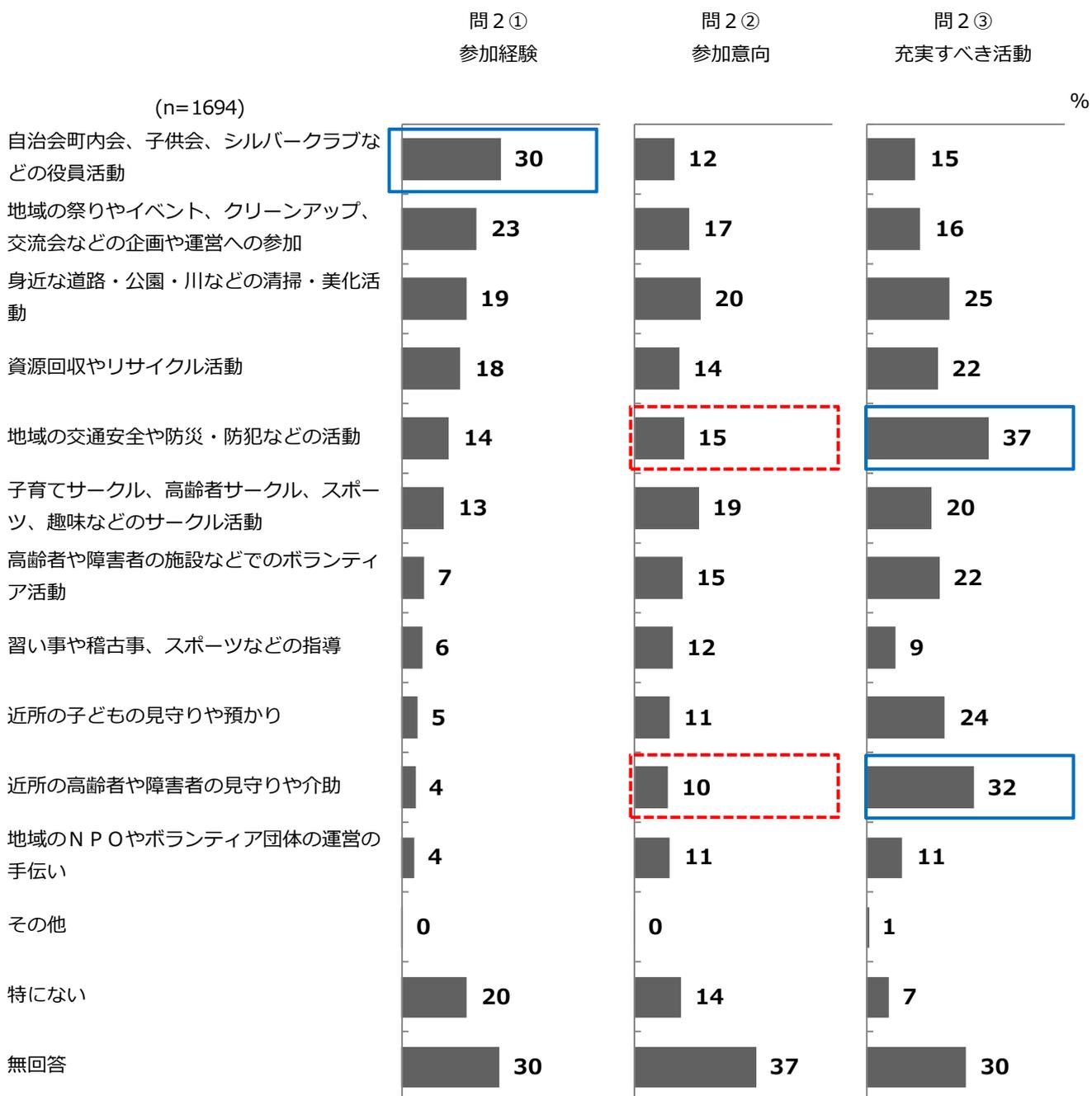
【地域活動 参加経験・参加意向・充実すべき活動の重要度】

- 「自治会町内会、子供会、シルバークラブなどの役員活動」の参加率が最も高く30%に達します。
- 地域活動の充実すべき活動をみると、「地域の交通安全や防災・防犯などの活動」と「近所の高齢者や障害者の見守りや介助」に対する重要度が高いという特徴が見られます。しかし、参加意向は「地域の交通安全や防災・防犯などの活動」が15%、「近所の高齢者や障害者の見守りや介助」が10%に留まります。

問2 ① あなたが、お住まいの地域で、この1～2年の間に次のような活動をしましたか？【複数回答】

問2 ② また、今後してみたいと思う活動はどのようなことですか？【複数回答】

問2 ③ 今後、地域の中でより充実させていくべき、重要度が高いと考える活動に○をつけてください。【複数回答】



3 地域活動

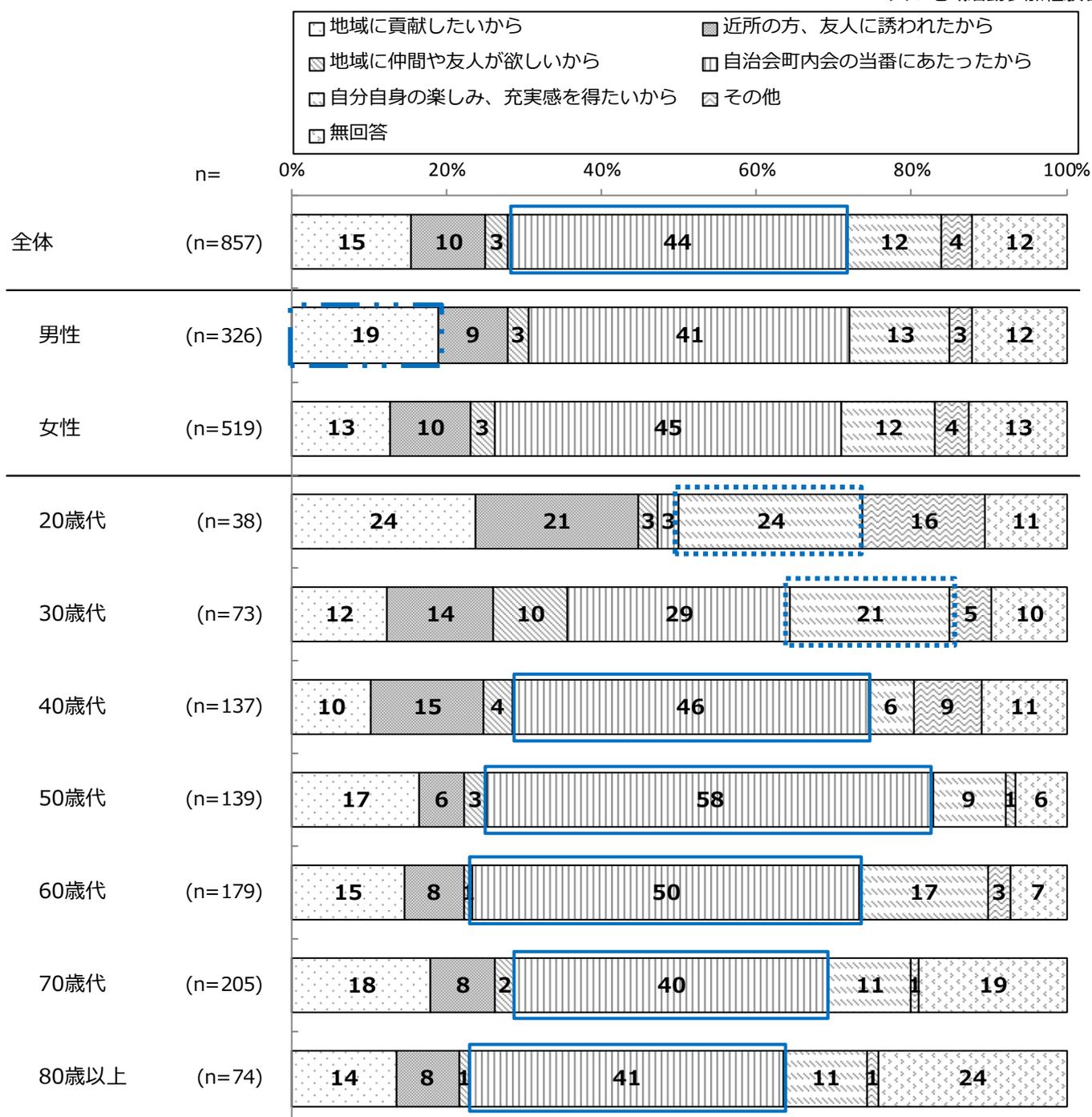
【地域活動 参加のきっかけ（性年代別）】

- 初めて地域活動に参加したきっかけは、「自治会町内会の当番にあたったから」が最も多く、全体の44%を占めています。
- 性別で見ると、男性は、「地域に貢献したいから」が女性より6ポイント多い点の特徴です。
- 年代別では、30歳代以下と40歳代以上で参加のきっかけが異なります。20歳代、30歳代では、他の年代層に比べて、「自分自身の楽しみ、充実感を得たいから」が多くなっています。40歳代以上では、「自治会町内会の当番にあたったから」が主なきっかけとなっています。

問3 問2①（参加経験の有無）で「特にない」以外に1つでも○をつけた方にお尋ねします。

初めて地域活動に参加したきっかけを教えてください。

ベース：地域活動参加経験者

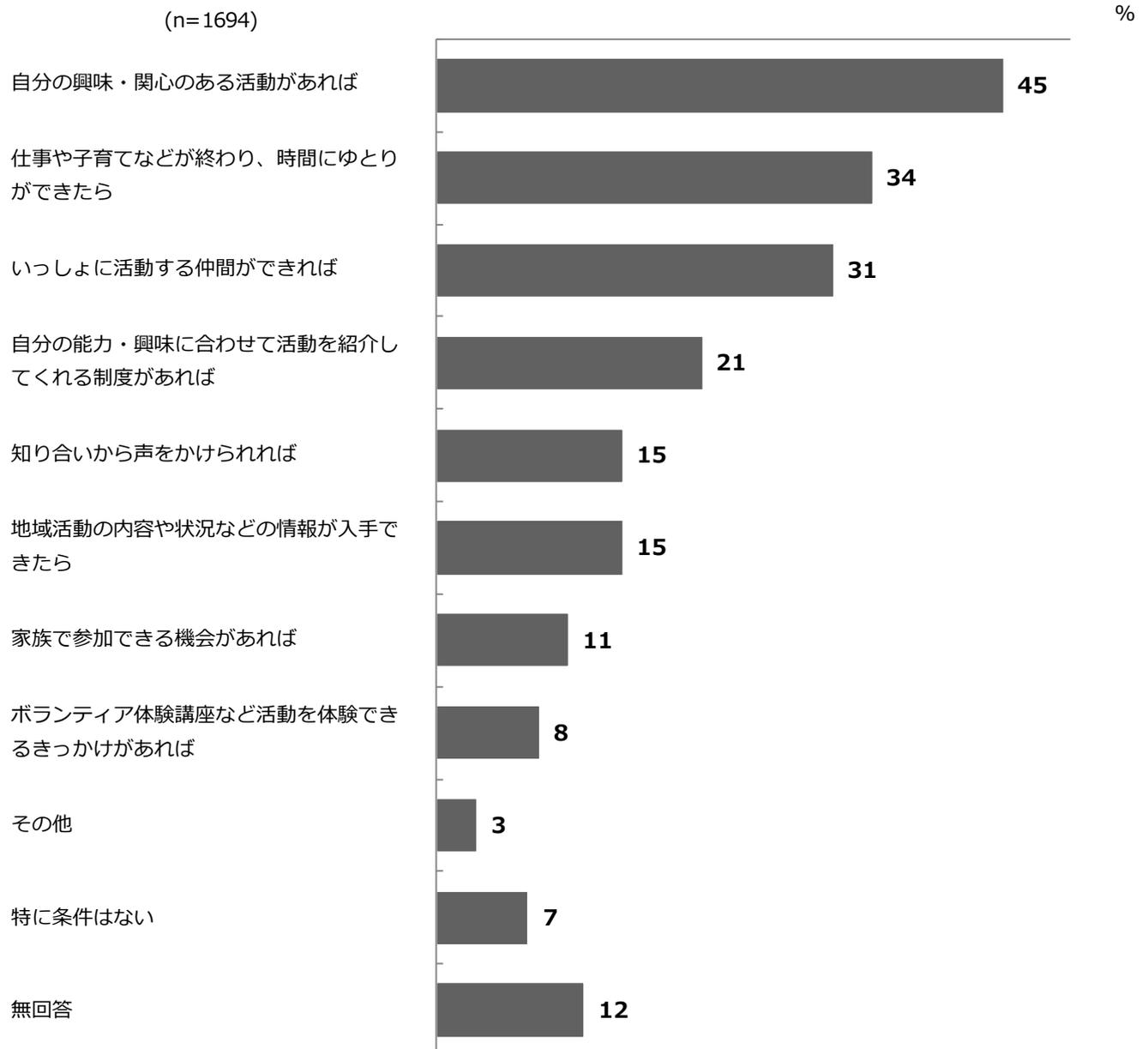


3 地域活動

【地域活動 参加条件】

- 地域活動への参加条件は、「自分の興味・関心のある活動があれば」が45%と最も多く、次いで、「仕事や子育てなどが終わり、時間にゆとりができたなら」が34%、「いっしょに活動する仲間ができれば」が31%と続いています。

問4 どういう条件があれば、地域活動に参加できそうですか？
（「現在参加している」方は、どういった条件があれば、地域活動を続けられそうですか？）【複数回答】



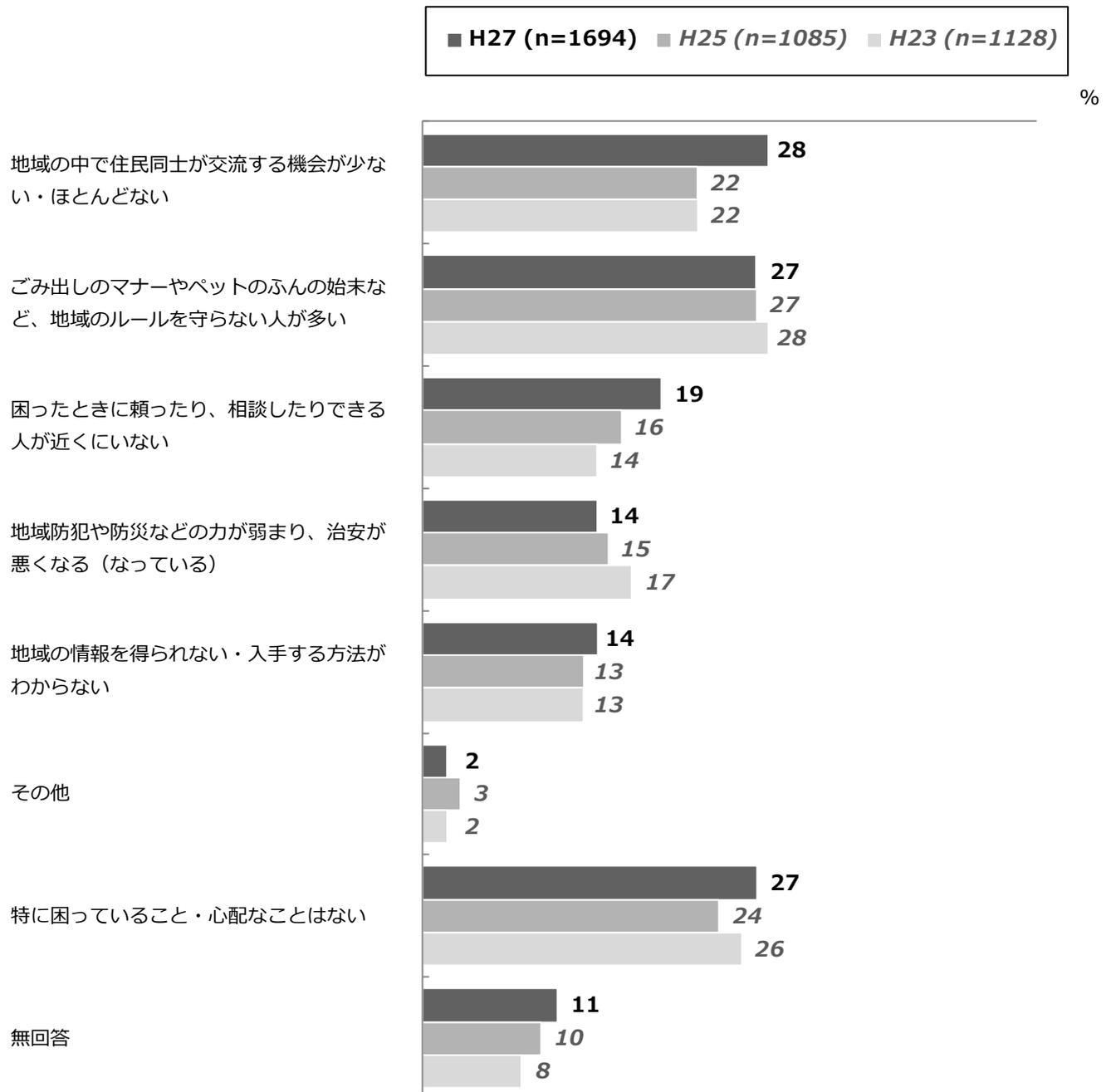
3 地域活動

【地域コミュニティ 困り事や心配事（経年比較）】

- 「地域の中で住民同士が交流する機会が少ない・ほとんどない」と「ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い」に対して懸念を抱いている人が多い結果となっています。
- 「特に困っていること・心配なことはない」の回答率は、平成23年度から大きな変化はありません。

※ 回答方法を平成27年度から変更したため、平成25年度、平成23年度との比較は参考となります。平成27年は、該当するものを全て選んでもらったのに対し、平成25年度と平成23年度は、2つまで選択可の設定となっていました。

問5 近隣との関係が希薄化し、地域活動の担い手不足などにより地域コミュニティ（地域社会）の力が弱まっていると言われていますが、このような中であなたが困っていること、心配なことはどのようなことですか？【複数回答】



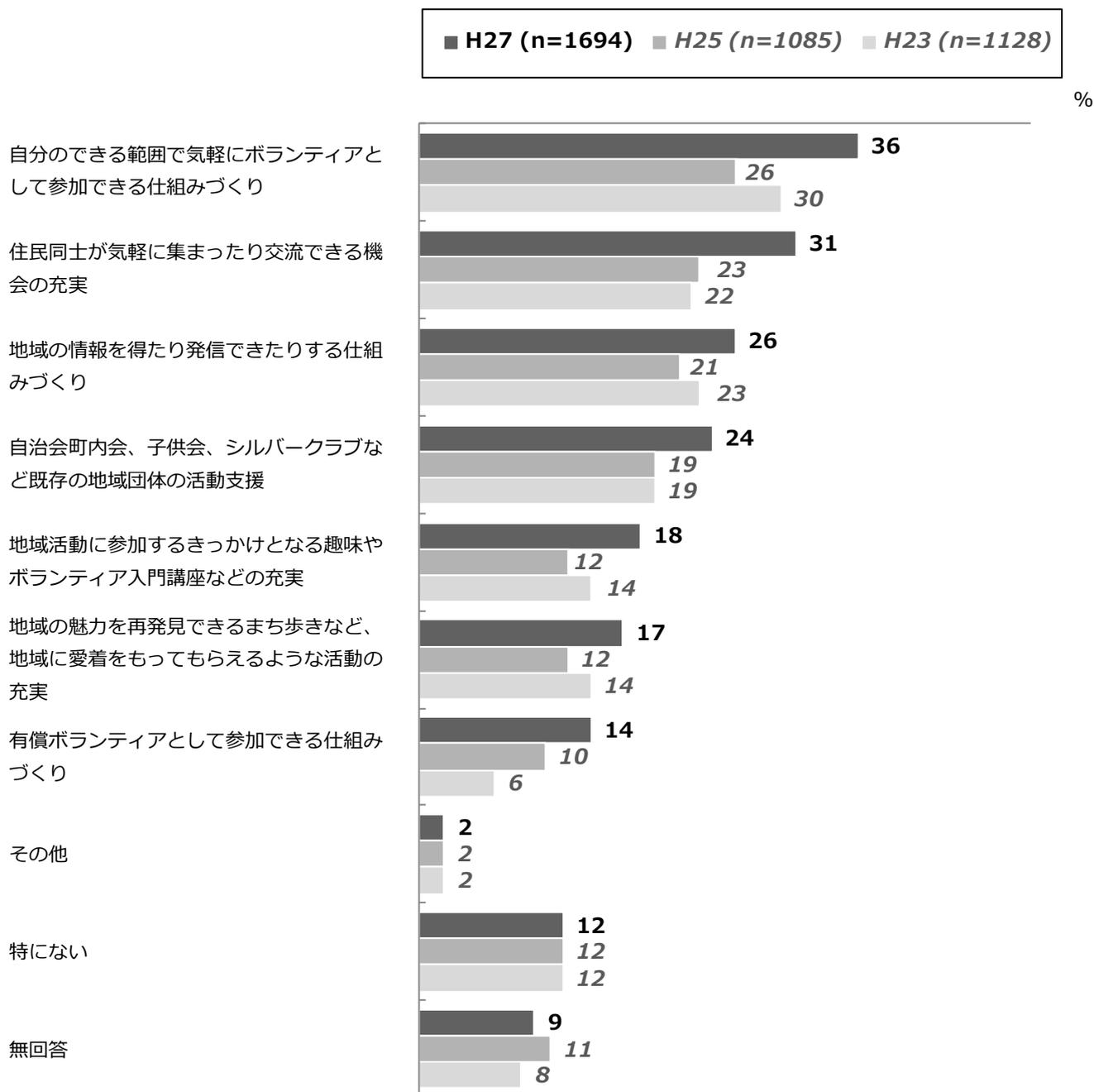
3 地域活動

【地域コミュニティ 強化が必要な点（経年比較）】

- 強化が必要な点は、「自分のできる範囲で気軽にボランティアとして参加できる仕組みづくり」(36%)、「住民同士が気軽に集まったり交流できる機会の充実」(31%)、「地域の情報を得たり発信できたりする仕組みづくり」(26%)が上位3項目に入っています。
- 「特にない」の割合は、平成23年度から変化はありません。

※ 回答方法を平成27年度から変更したため、平成25年度、平成23年度との比較は参考となります。
平成27年は、該当するものを全て選んでもらったのに対し、平成25年度と平成23年度は、2つまで選択可の設定となっていました。

問6 地域コミュニティ（地域社会）を強化し、地域での活動を充実させていくために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか？【複数回答】

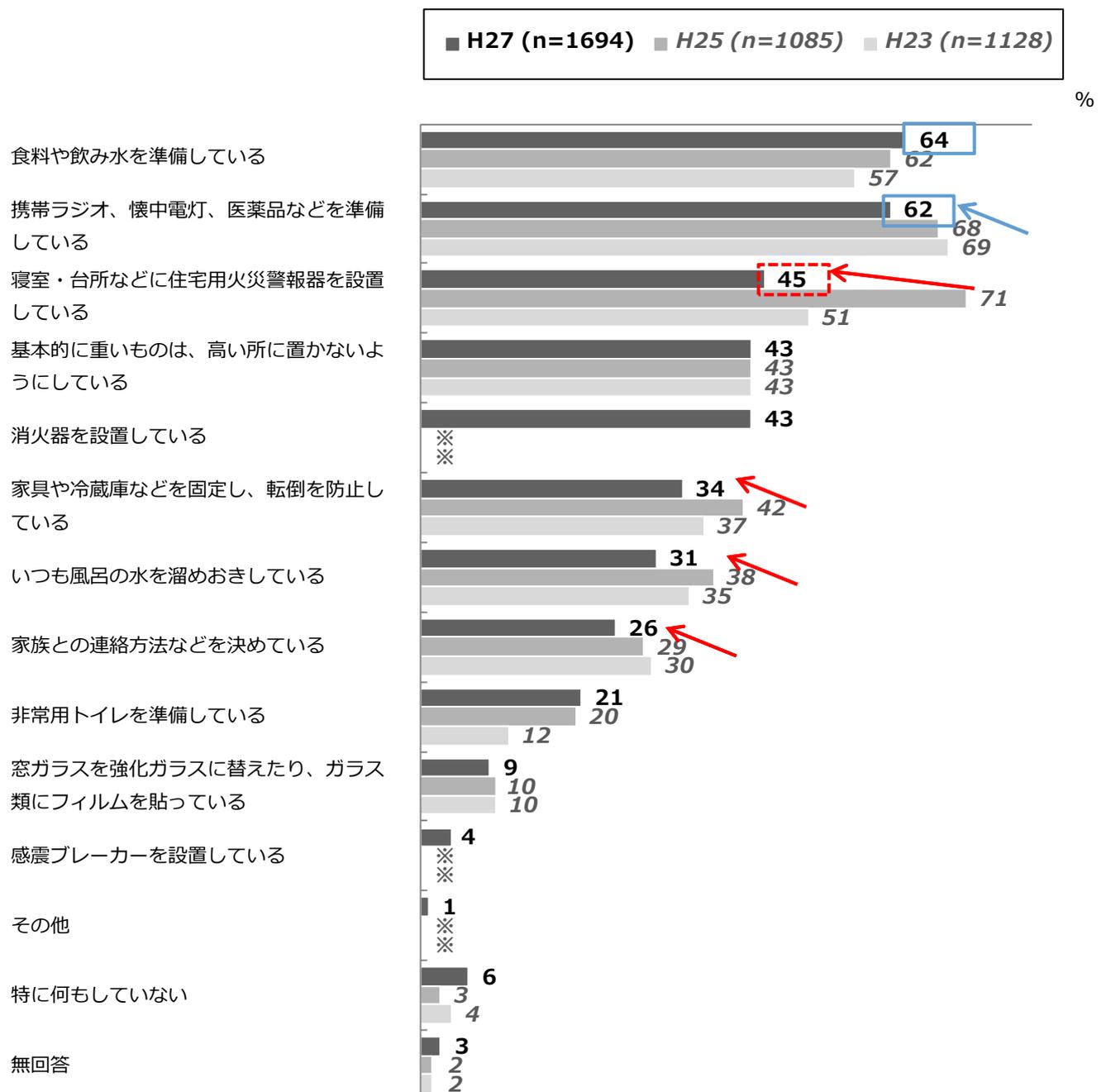


4 大地震などの災害に備えた対策

【災害への対策（経年比較）】

- 災害への対策として、「食料や飲み水を準備している」と「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」は6割を超え、実施率が高いです。
- 平成25年度と比較すると、実施率が減少した項目が目立ちます。特に、「寝室・台所などに住宅用火災警報器を設置している」が-26ポイントと大幅に減少しています。

問9 あなたの家では、地震や火災に備えて、どのような対策をとっていますか？【複数回答】



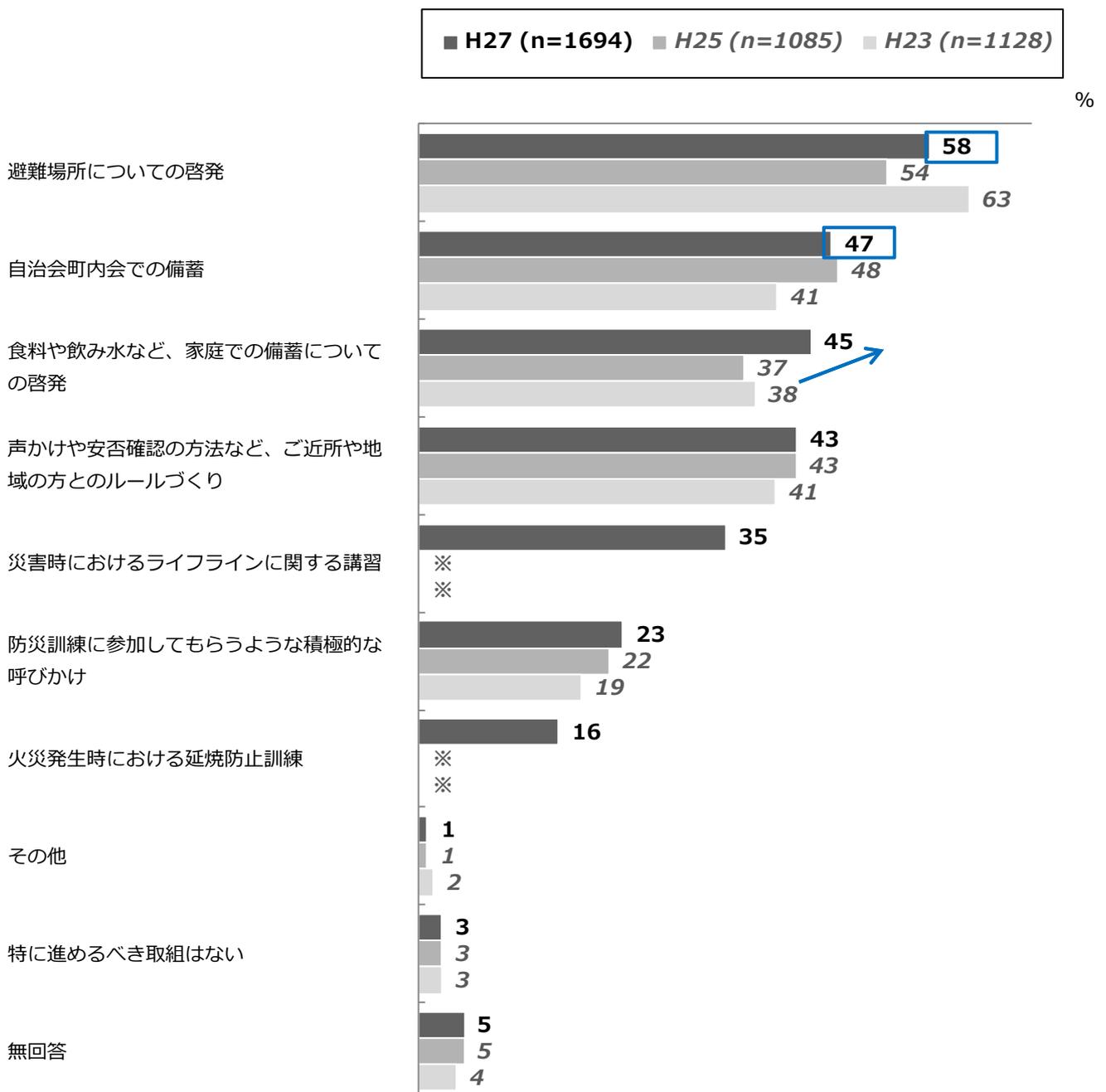
※「消火器を設置している」「感震ブレーカーを設置している」「その他」の項目は今回のみ聴取

4 大地震などの災害に備えた対策

【災害に備え自治会町内会がすすめるべき取組（経年比較）】

- 過去の調査と同様に、「避難場所についての啓発」と「自治会町内会での備蓄」に対する要望が多い結果となっています。
- 平成25年度と比較し、「食料や飲み水など、家庭での備蓄についての啓発」は、8ポイント上昇しています。

問10 大地震などの災害に備え、今後、自治会町内会がどのような取組をすすめるべきだと思いますか？【複数回答】

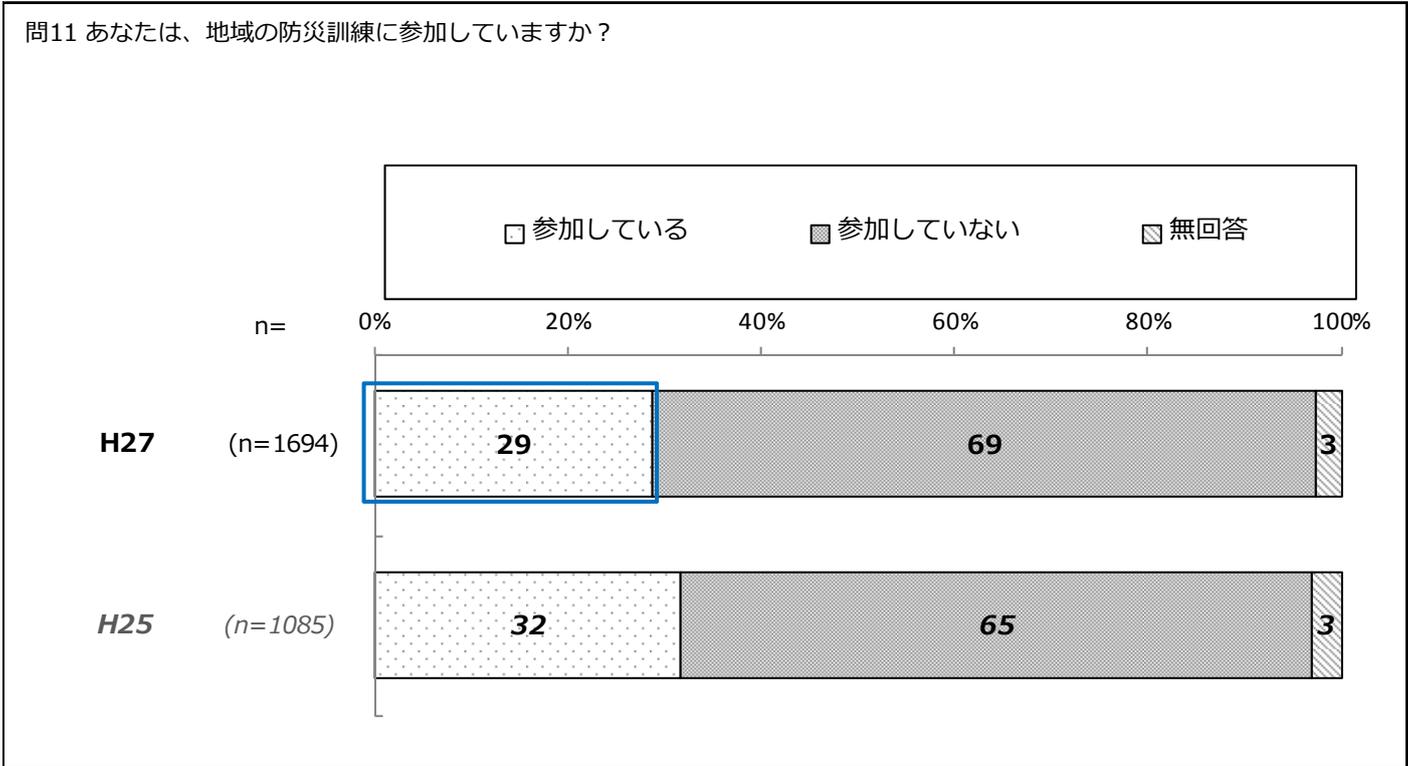


※「災害時におけるライフラインに関する講習」「火災発生時における延焼防止訓練」の項目は今回のみ聴取

4 大地震などの災害に備えた対策

【地域の防災訓練への参加有無】

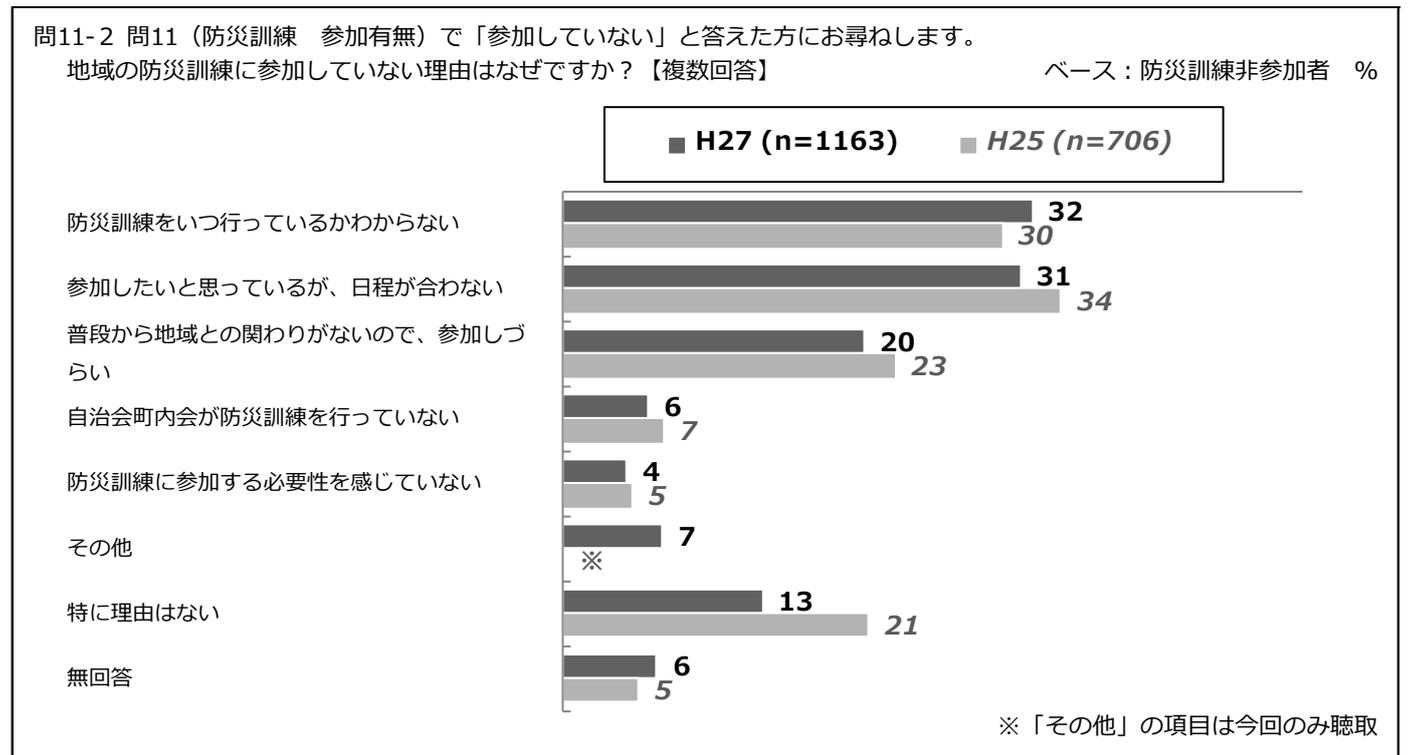
- 全体の29%が地域の防災訓練に参加しています。
- 平成25年度から参加率に大きな変化は見られません。



【地域防災訓練 不参加理由】

- 「防災訓練をいつ行っているかわからない」(32%)と「参加したいと思っているが、日程が合わない」(31%)が、主な不参加理由となっています。

※ 回答方法を平成27年度から変更したため、平成25年度との比較は参考となります。
 平成27年は、該当するものを全て選んでもらったのに対し、平成25年度は、3つまで選択可の設定となっていました。

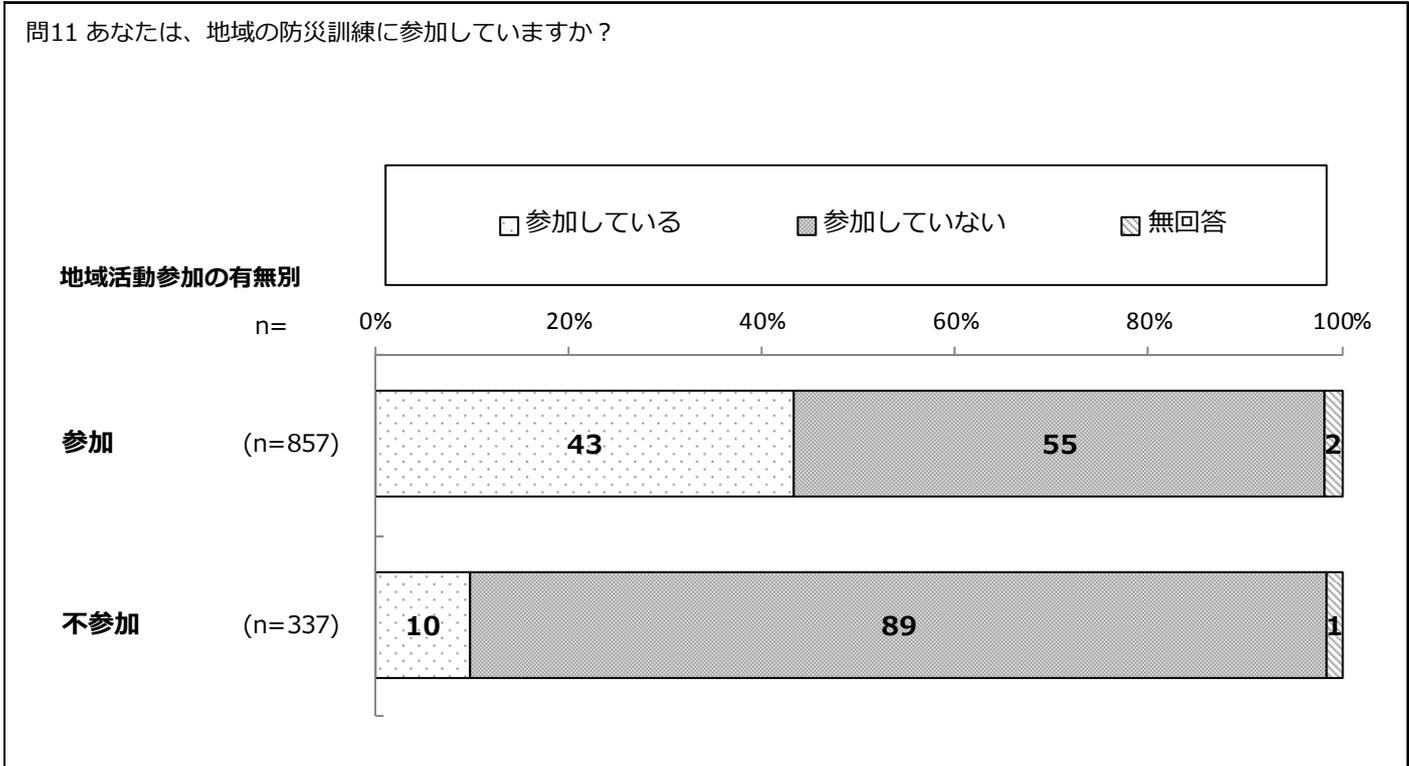


4 大地震などの災害に備えた対策

【地域活動への参加状況別 地域の防災訓練への参加状況】

- 地域活動へ参加している人※の地域の防災訓練への参加率は、43%です。一方で、地域活動へ不参加の人は、防災訓練への参加率も低く、10%に留まります。

※問2①で1つでも地域活動に参加していると回答した人



イザという時、役に立つのは地域の絆 ～自治会町内会の活動は“みなさんをつなぐ”役割をしています！～

自治会町内会は、その地域に暮らす人たちが協力しながら、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、活動している組織です。

<自治会町内会の活動内容>

- 子育て支援、高齢者の見守り等の支えあいの活動
- お祭り、運動会等を通じた住民相互のふれあいづくり
- ごみの分別収集の推進、集積場所や公園などの清掃
- 夜道を照らす防犯灯の設置、防犯パトロールの実施
- 防災訓練、減災に向けた啓発活動 等



港南区 自治会

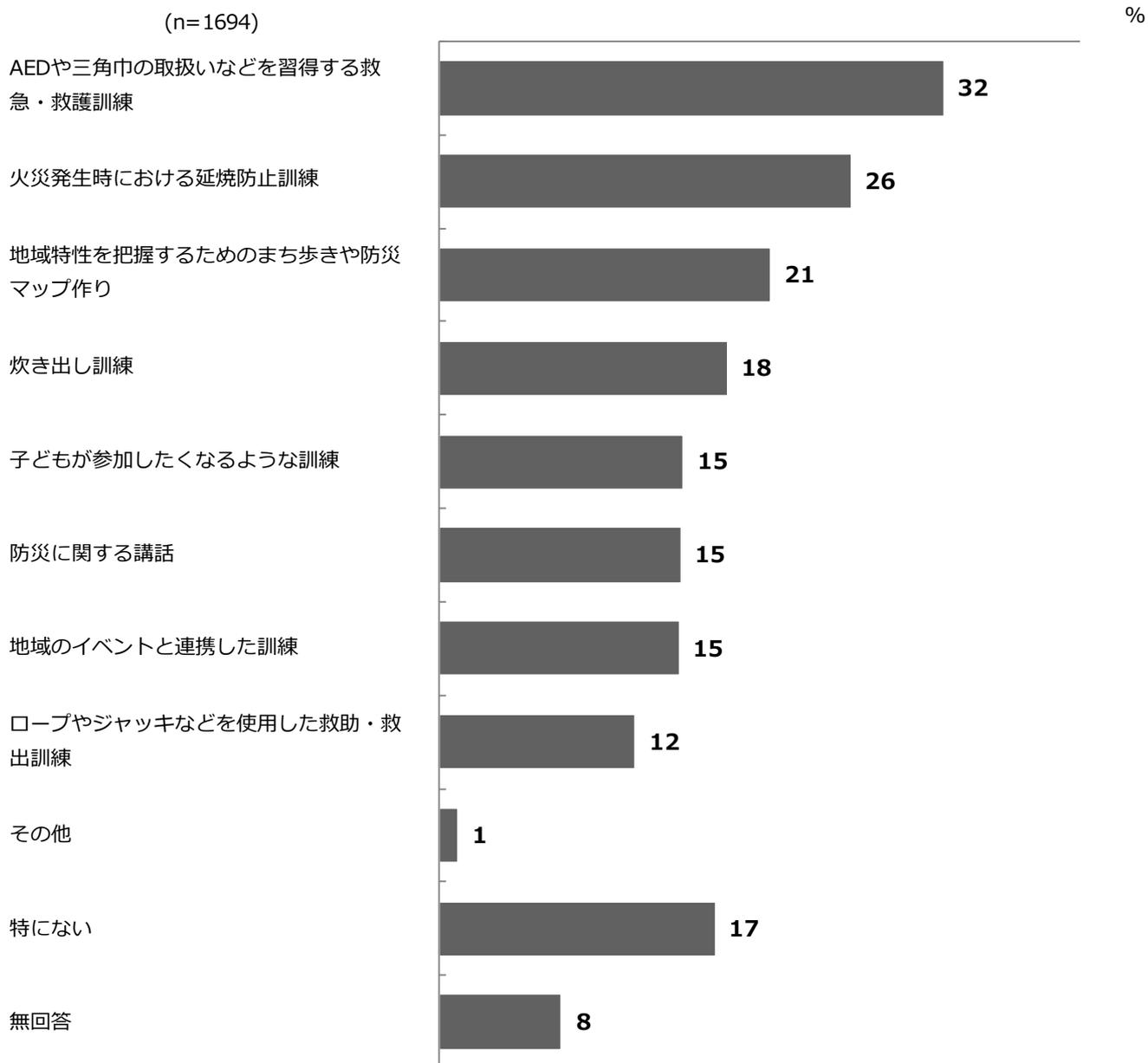
検索

4 大地震などの災害に備えた対策

【参加してみたい防災訓練】

- 参加してみたい防災訓練は、「AEDや三角巾の取扱いなどを習得する救急・救護訓練」が最も高く32%、次いで、「火災発生時における延焼防止訓練」が26%と多くなっています。

問12 あなたは、どのような防災訓練に参加してみたいですか？【複数回答】

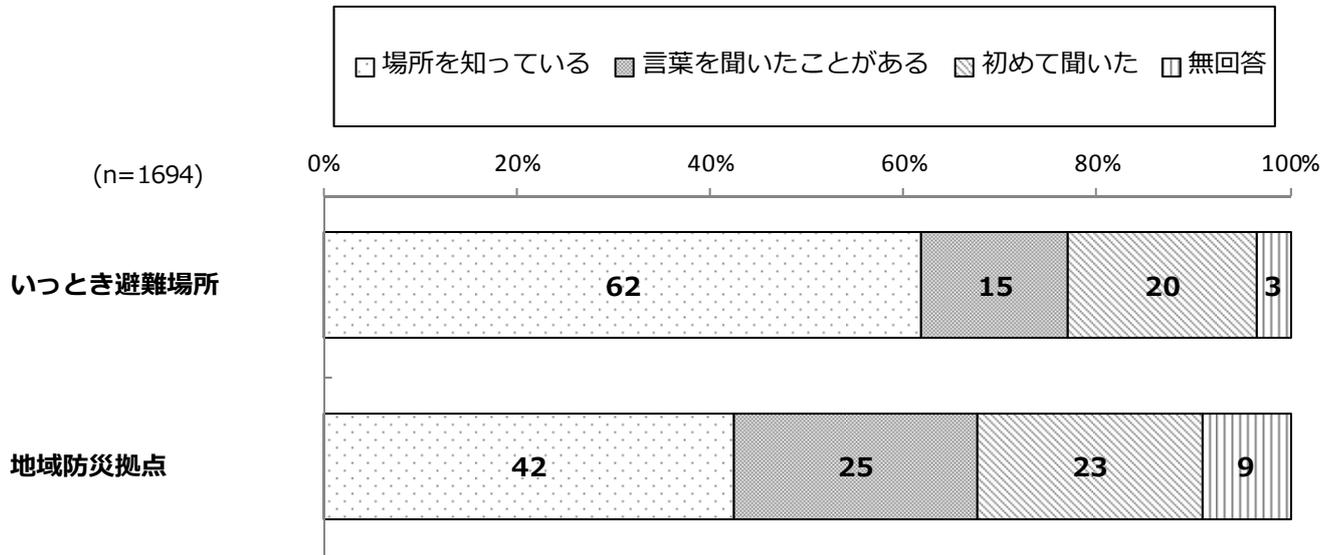


4 大地震などの災害に備えた対策

【いつとき避難場所と地域防災拠点の認知】

- 「いつとき避難場所」の場所まで認知している率は62%、「地域防災拠点」の場所まで認知している率は42%となっています。

問13 あなたのお住まいの地域のいつとき避難場所、地域防災拠点について、どの程度知っていますか？



<いつとき避難場所>

地震発生後にお互いの安否を確認し、近くにお住いの方がいったん集まる場所です。場所や仕組みは自治会や町内会で決められています。



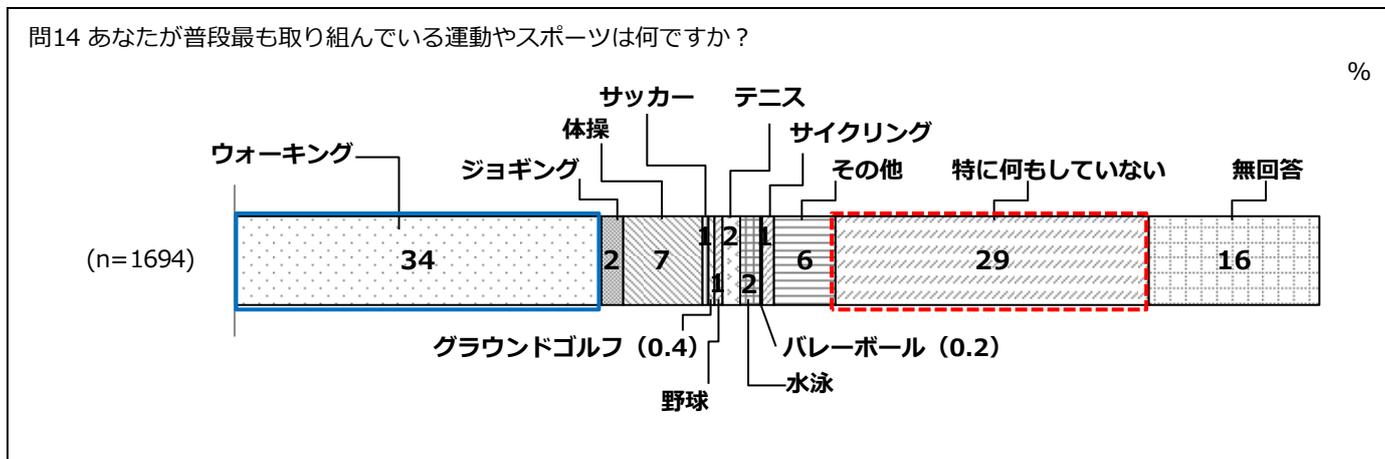
<地域防災拠点>

いつとき避難場所に避難した後、ご自宅が倒壊または倒壊の危険があり、自宅での生活ができないときに、避難生活を送る場所です。

5 健康づくり

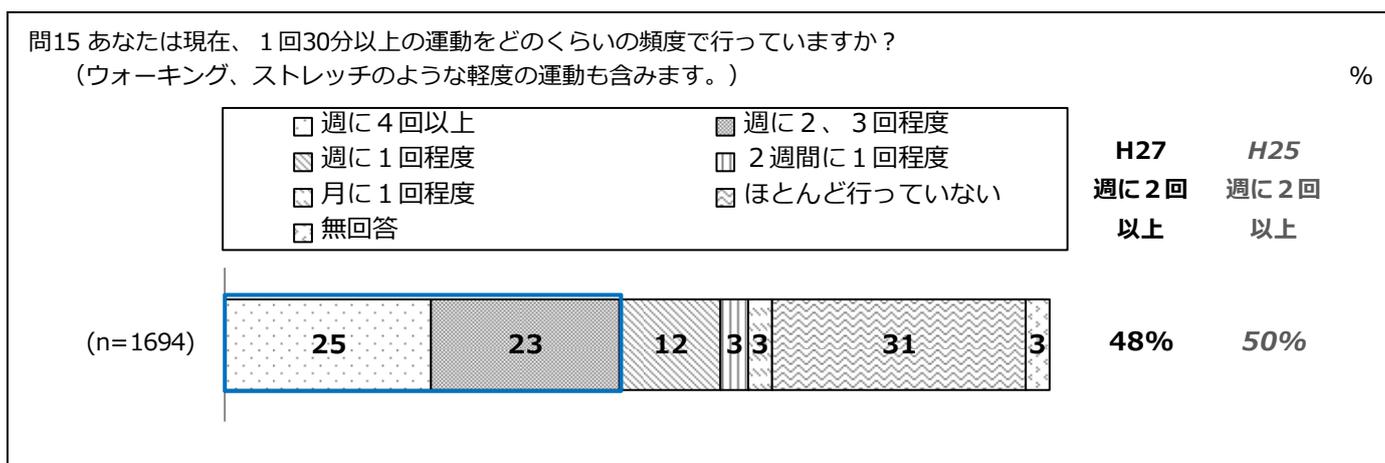
【普段取り組んでいる運動】

- 普段取り組んでいる運動は、「ウォーキング」が最も多く34%でした。一方で、「特に何もしていない」の割合も約3割を占めます。



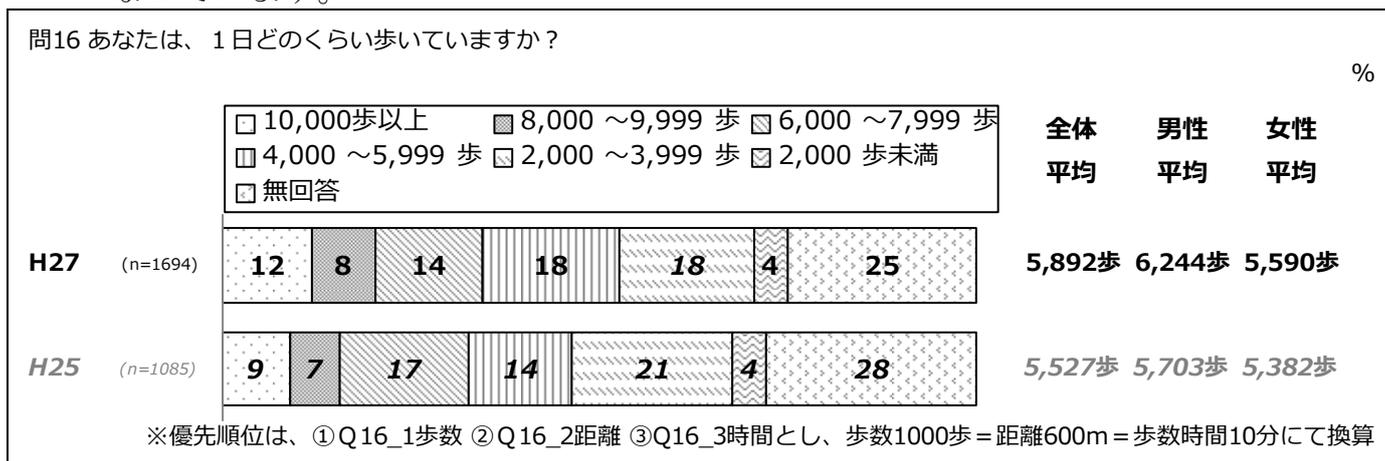
【運動頻度】

- 運動を週に2回以上している人は、全体の48%を占めます。



【一日の平均歩数】

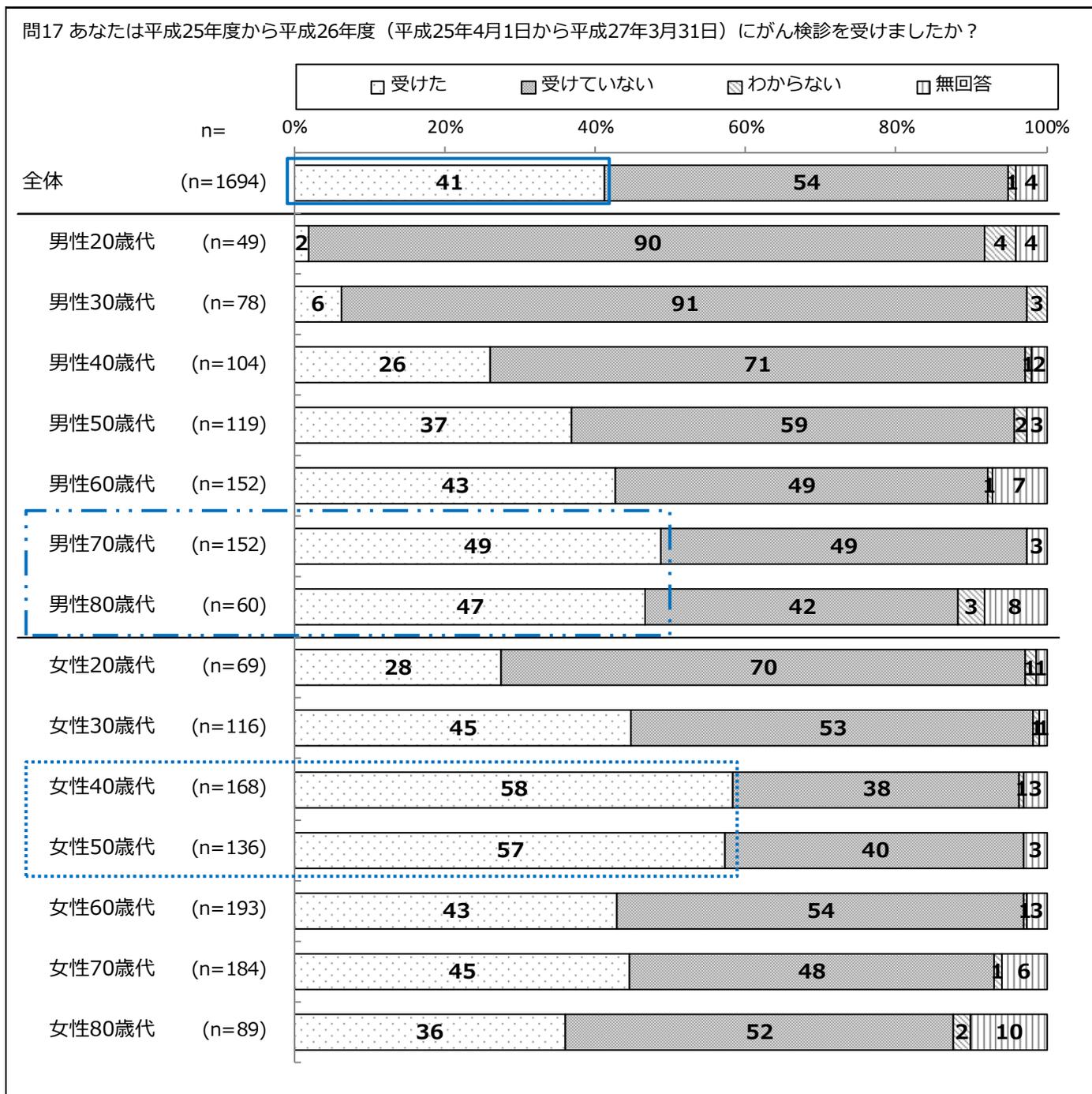
- 全体の一日の平均歩数は、5,892歩。男性の方が、女性よりも平均歩数が多くなっています。



5 健康づくり

【がん検診の受診有無】

- 全体の41%が、平成25年度から平成26年度の間にごがん検診を受けたと回答しています。がん検診の受診率は、性年代別に差が見られます。男性は、70歳以上の受診率が高く、女性は40歳代と50歳代で受診率が高い点が特徴です。



健康寿命を伸ばすチャレンジ ～いつまでも元気に自分らしい毎日を～

「1日8,000歩 速歩き20分」の活動が老化や病気の予防の目安（※）

とされています（活動には、外出や家事も含まれます）。

また、日本人の2人に1人はがんになると言われていますが、「定期的ながん検診受診」とともに、「適度に運動」することもがん予防に効果的です。

運動不足の方は、手軽にできるウォーキングから始めてみませんか。

※ 中之条研究（東京都健康長寿医療センター 青柳幸利氏）より



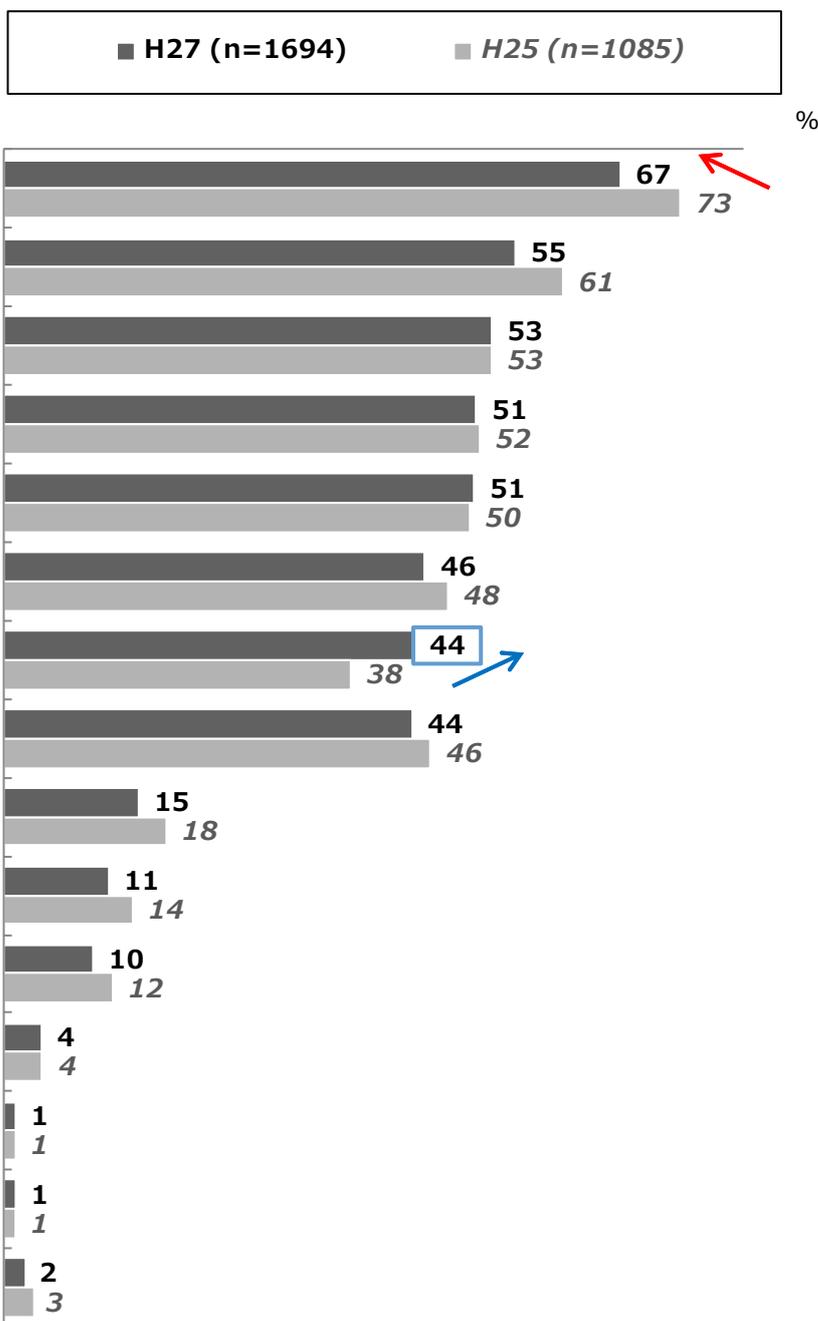
港南区ウォーキング推進
キャラクターひまわりくん

6 環境対策

【ゴミの減量化・温暖化対策に向けた家庭での普段の取組（経年比較）】

- ゴミの分別の実施率は、平成25年度から6ポイント低下しているものの、全項目の中で最も高く67%となっています。
- LED照明の使用は、平成25年度から6ポイント上昇し、44%となっています。

問22 横浜市では、「ヨコハマ3 R夢(スリム)プラン」を策定し、リサイクルの推進やごみと資源の総排出量削減などに取り組んでいます。また、家庭で取り組める身近な温暖化対策を推進しています。あなたが普段家庭で取り組んでいることはありますか？【複数回答】

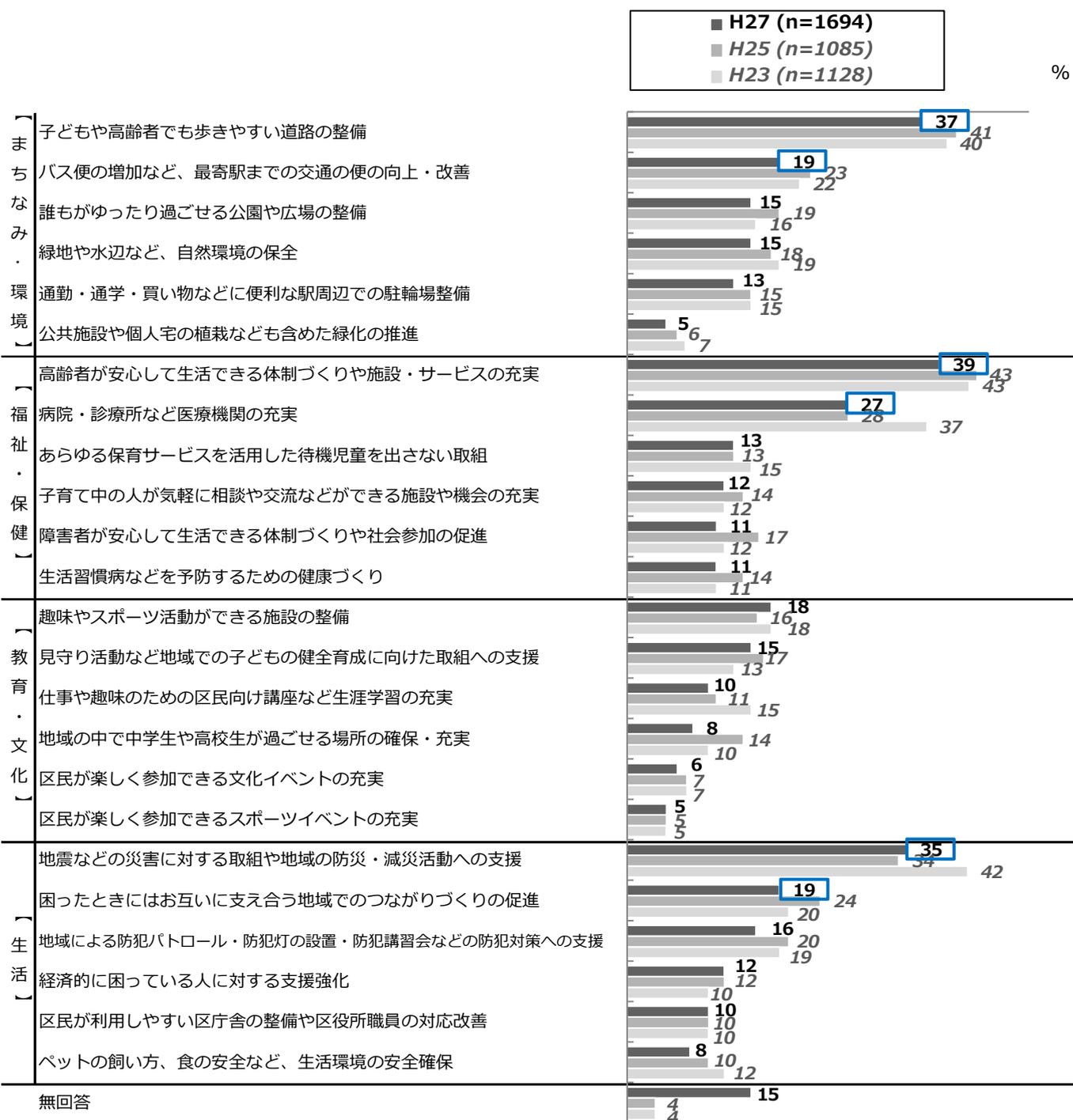


7 区政運営

【港南区が短期的に取り組むべき区政運営（経年比較）】

- 平成27年度の上位5項目は、「高齢者が安心して生活できる体制づくりや施設・サービスの充実」が39%と最も多く、次いで「子どもや高齢者でも歩きやすい道路の整備」が37%、「地震などの災害に対する取組や地域の防災・減災活動への支援」が35%、「病院・診療所など医療機関の充実」が27%、「バス便の増加など、最寄駅までの交通の便の向上・改善」と「困ったときにはお互いに支え合う地域でのつながりづくりの促進」が19%と続きます。
- 平成25年度と比較すると、ほとんどの項目で重要性のスコアは低下していますが、港南区が取り組むべき区政運営の上位5項目は変化はありません。

問24 今後、短期的（概ね2～3年）に港南区が取り組むべきものとして重要だと思う項目を5つまで選び、あてはまる数字に○をつけてください。【5つまで選択可】

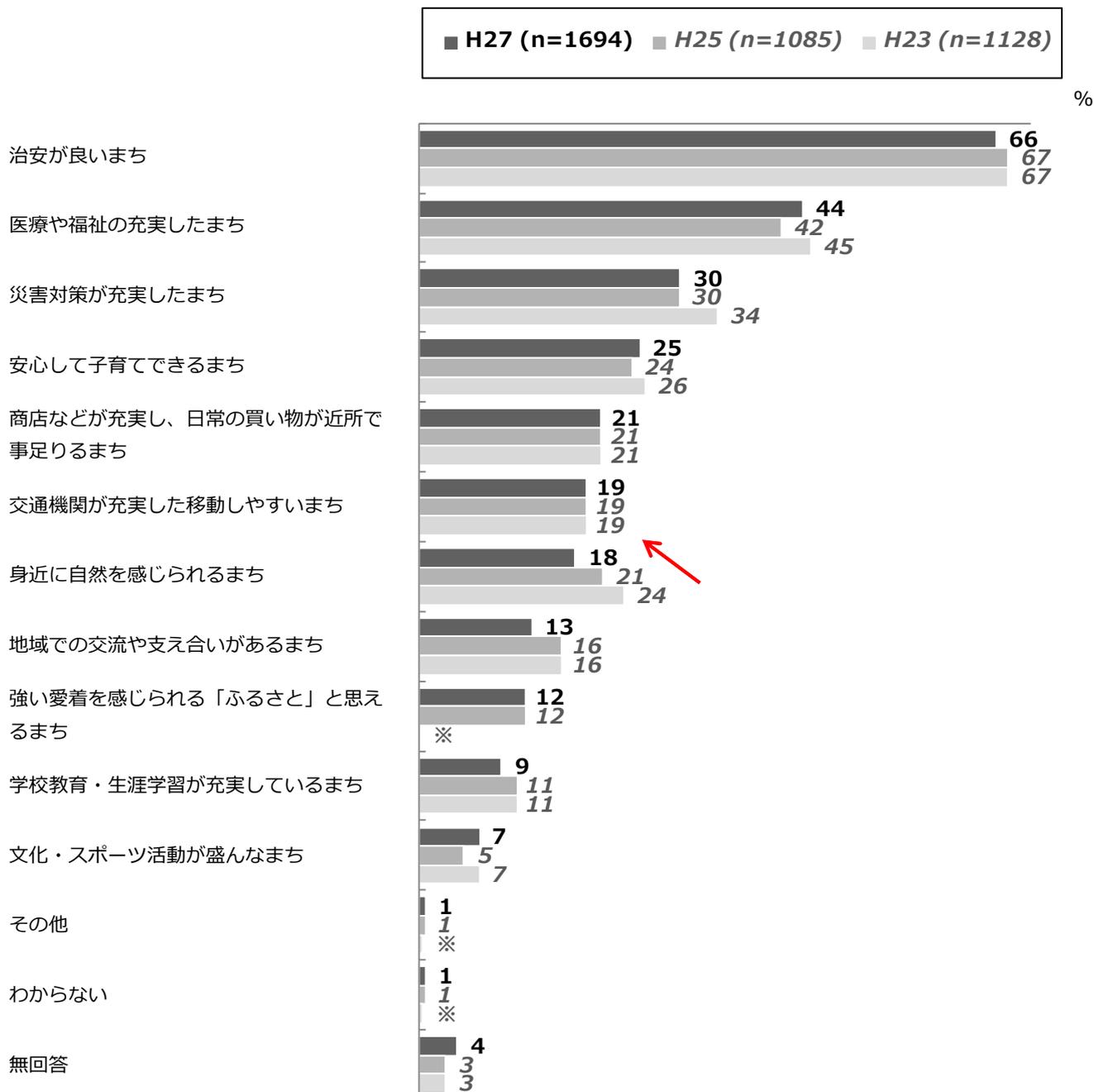


7 区政運営

【区の将来像（経年比較）】

- 平成27年度の上位3項目は、「治安が良いまち」が最も多く66%、次いで、「医療や福祉の充実したまち」が44%、「災害対策が充実したまち」が30%と続いています。望ましい区の将来像の上位3項目は平成25年度から変化ありません。
- 「身近に自然を感じられるまち」は、平成23年度から6ポイント低下しています。

問25 あなたは、港南区が将来（概ね5～10年後）に向けて、
どのような方向に発展していくことが望ましいと思いますか？【3つまで選択可】



※「強い愛着を感じられる「ふるさと」と思えるまち」の項目はH23にて非聴取

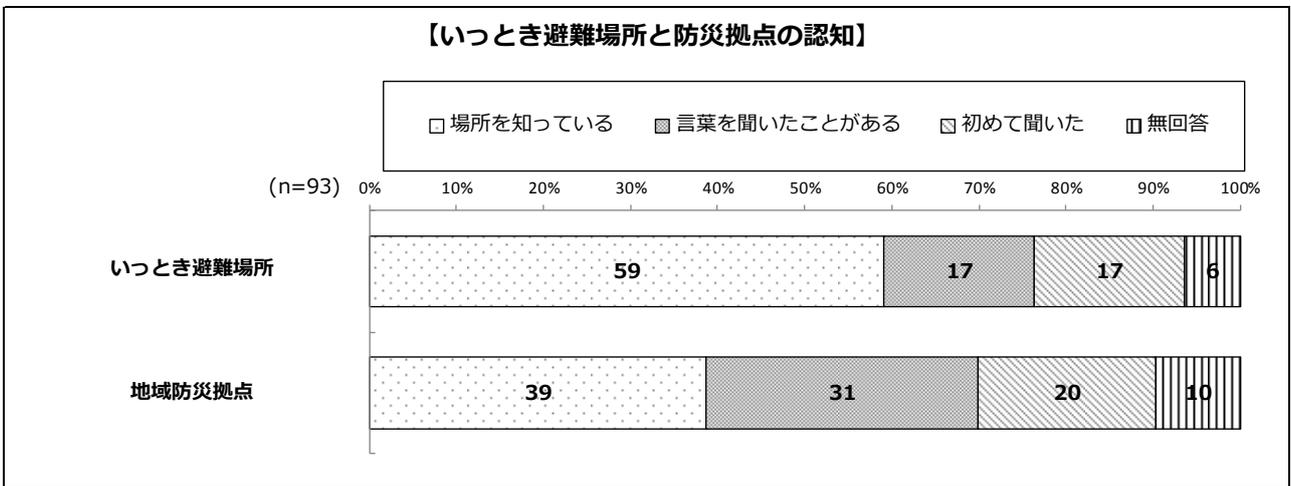
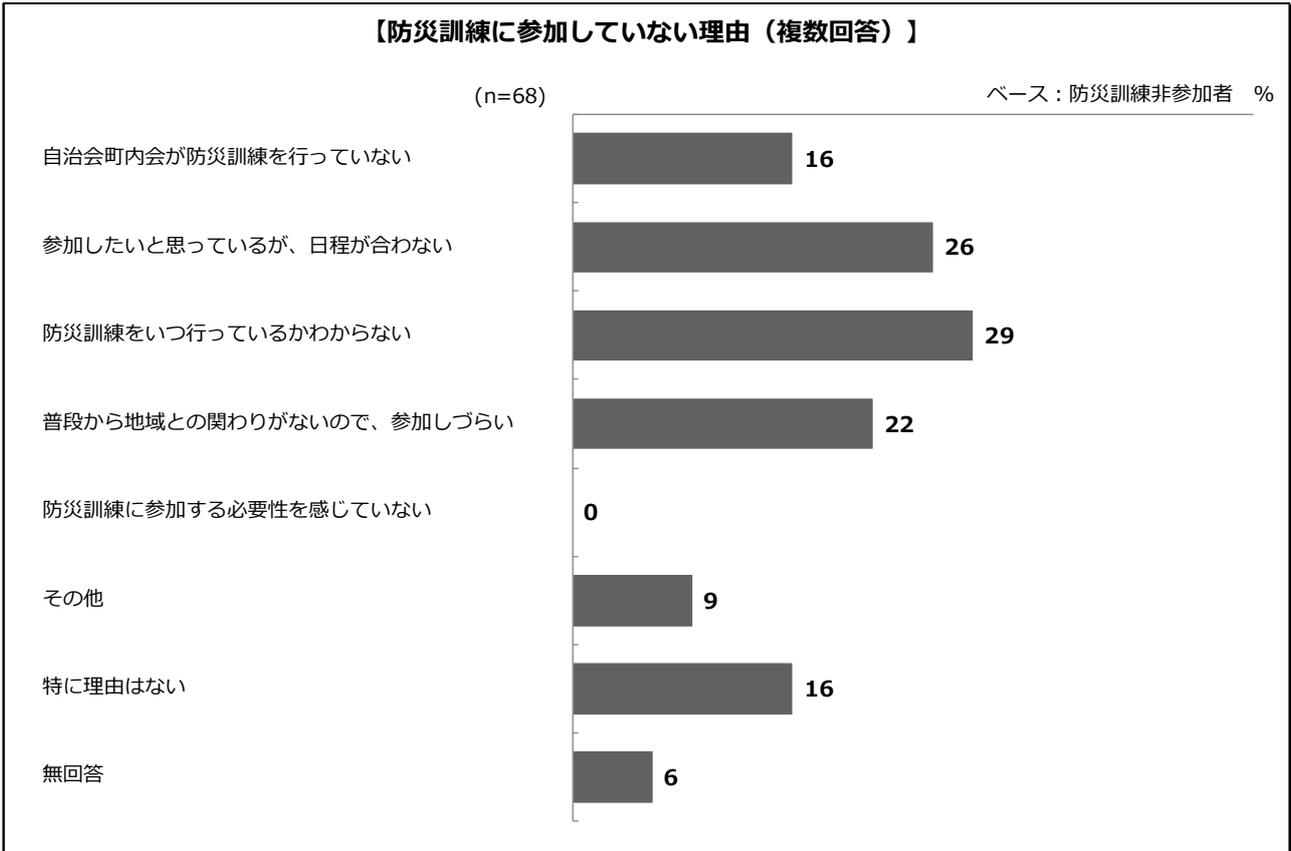
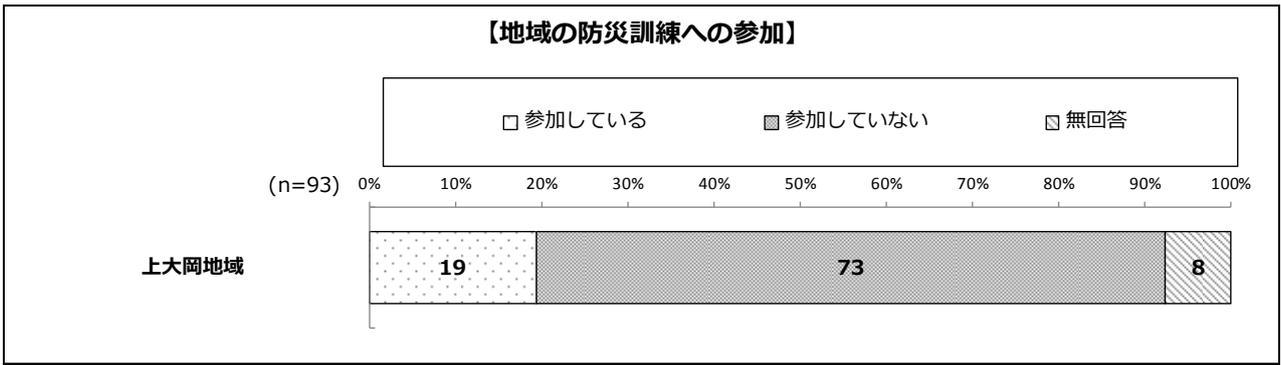
8 資料編(地域別集計の概要)

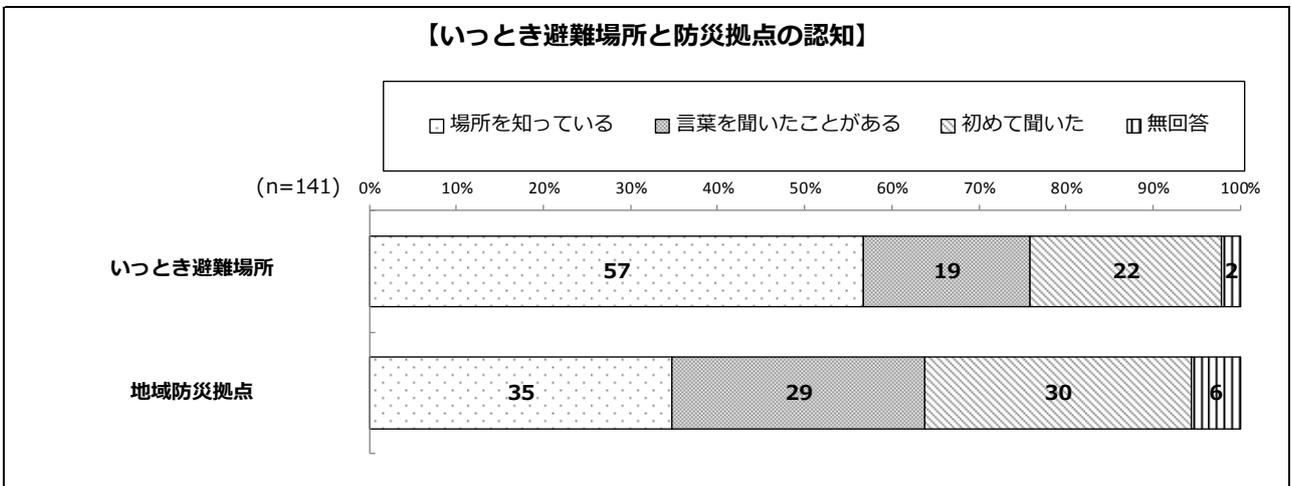
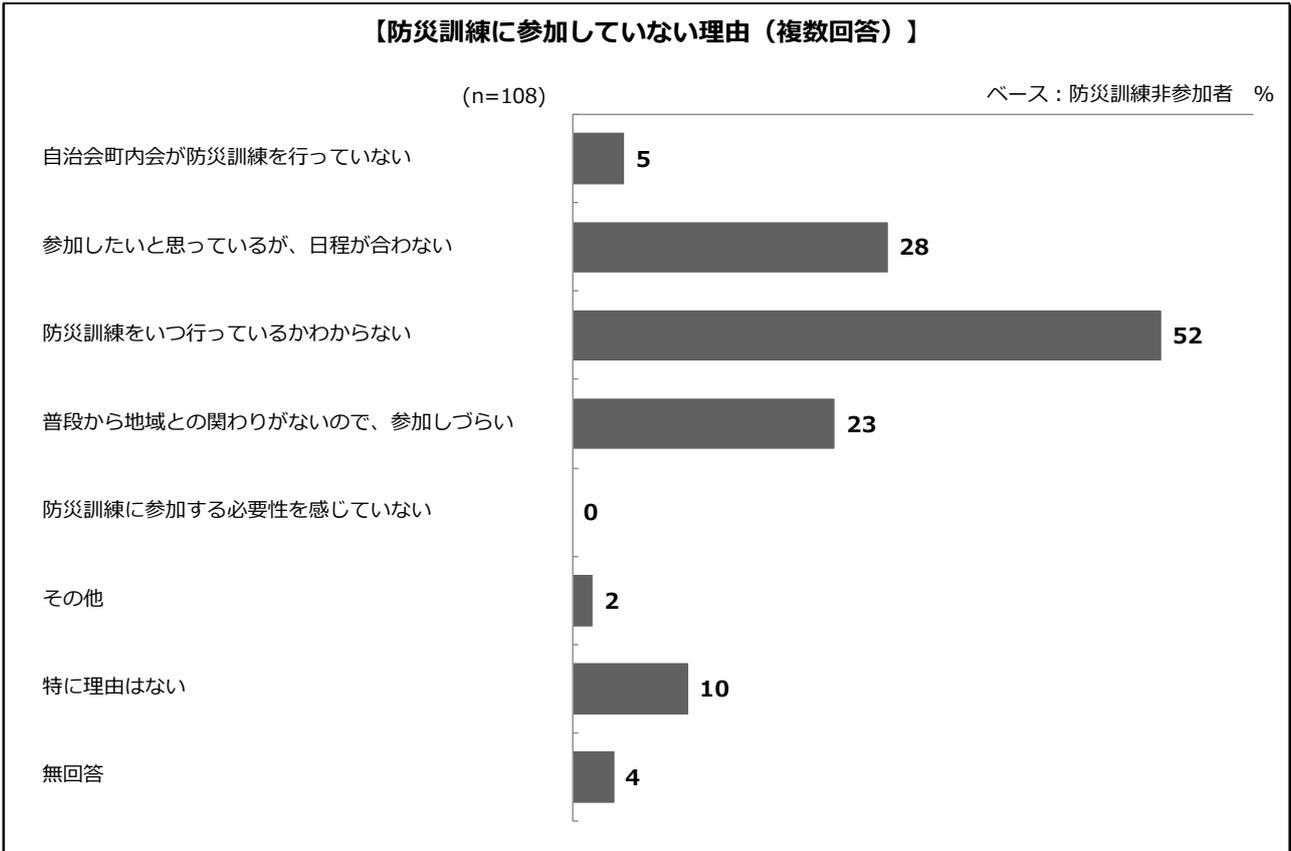
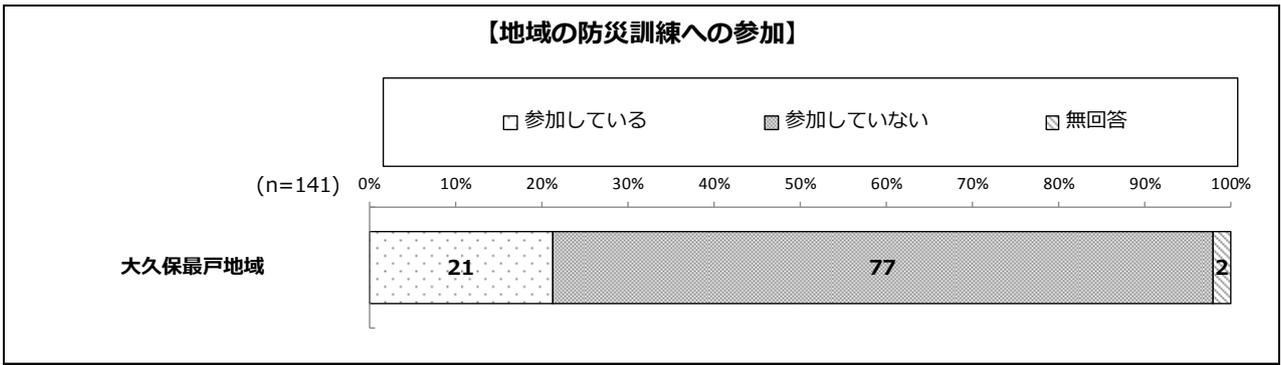
【回答者の居住町丁別人数及び割合】

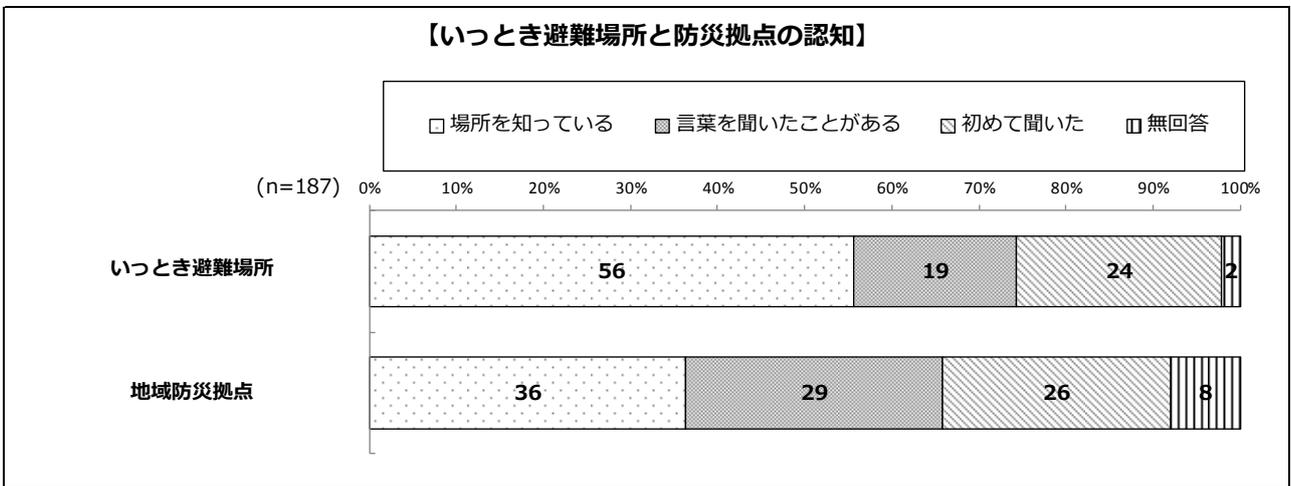
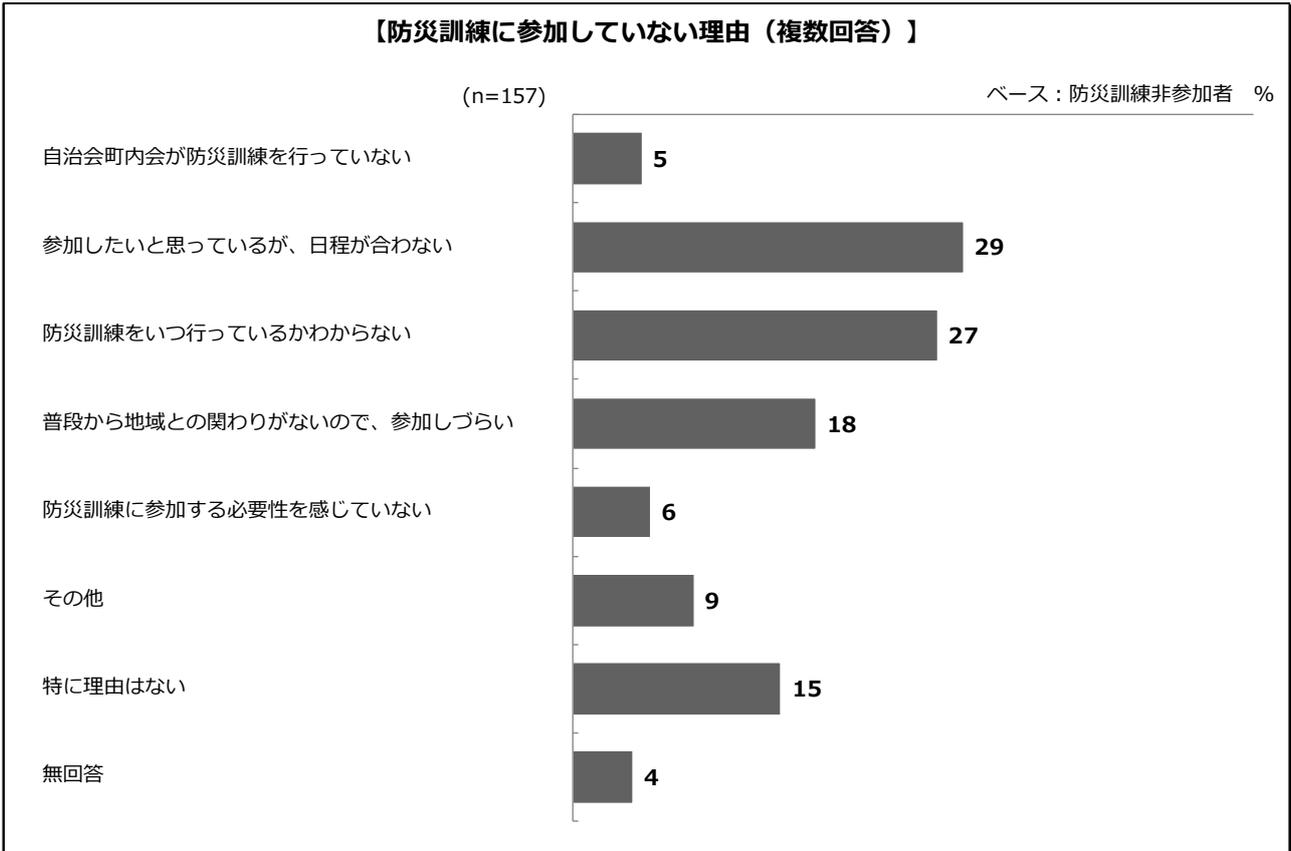
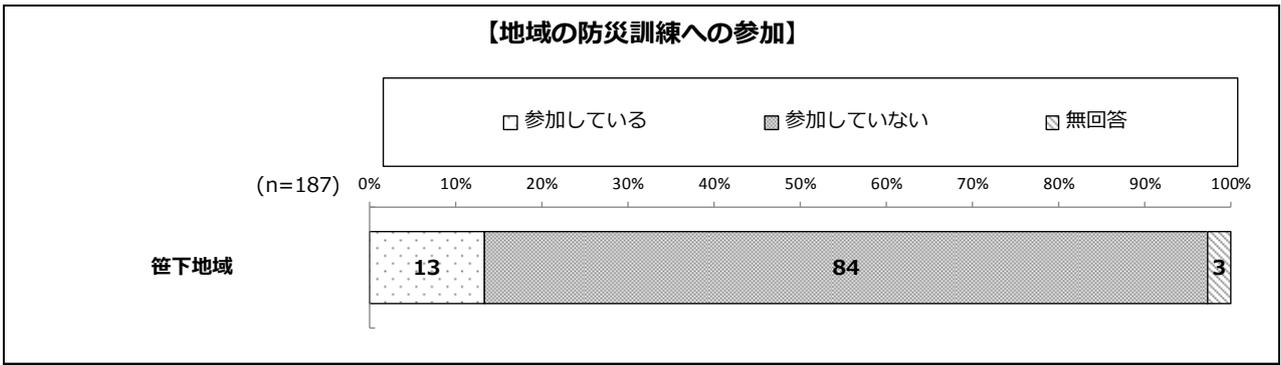
- 連合自治会町内会エリアを「地域」として、地域別に集計結果をまとめました。
- 下記の特性上地域の範囲や数値については、回答人数が少なく、厳密なデータではないため、大よその傾向としてご参照ください。
 - アンケートで確認できる回答者の居住町丁域を単位に、連合自治会町内会エリアに割振りしています。そのため、実際の連合自治会町内会エリアと異なる地域があります。
 - 町丁別に回答者数にバラつきがあるのは、回答者を住民基本台帳等を基に無作為抽出した結果です。

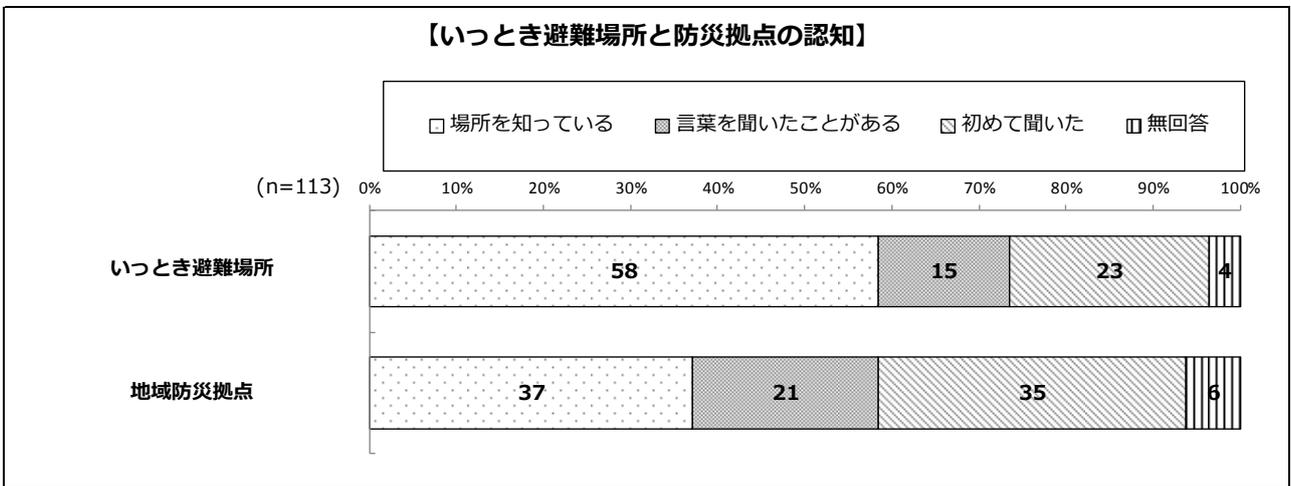
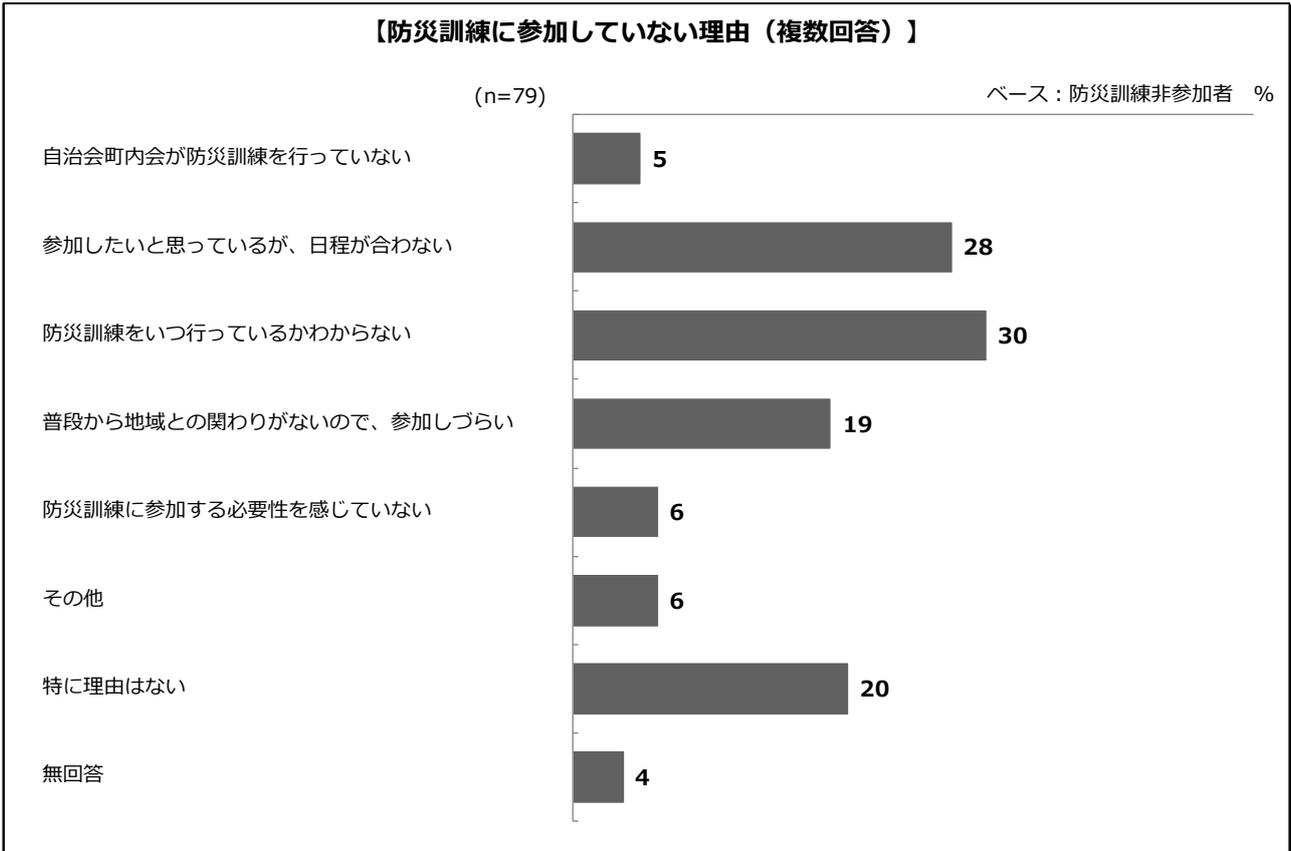
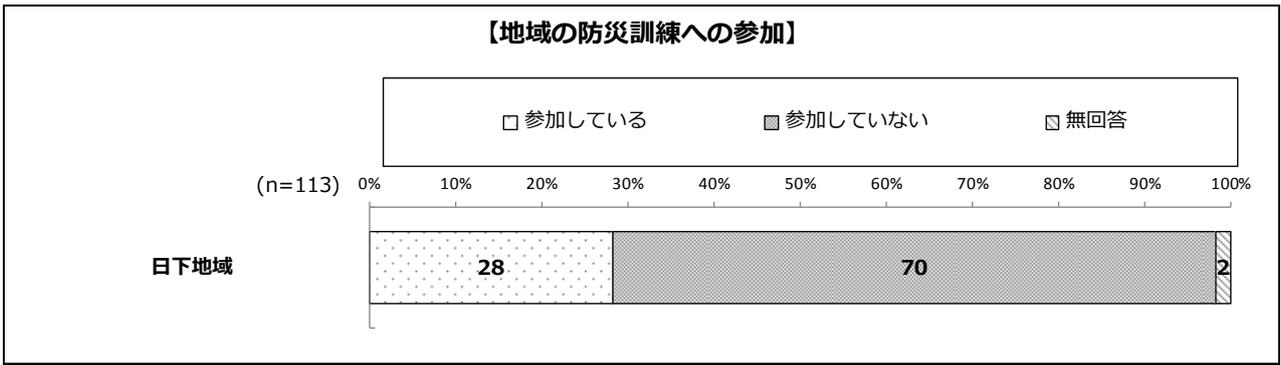
Ⅶ お住まいの町名

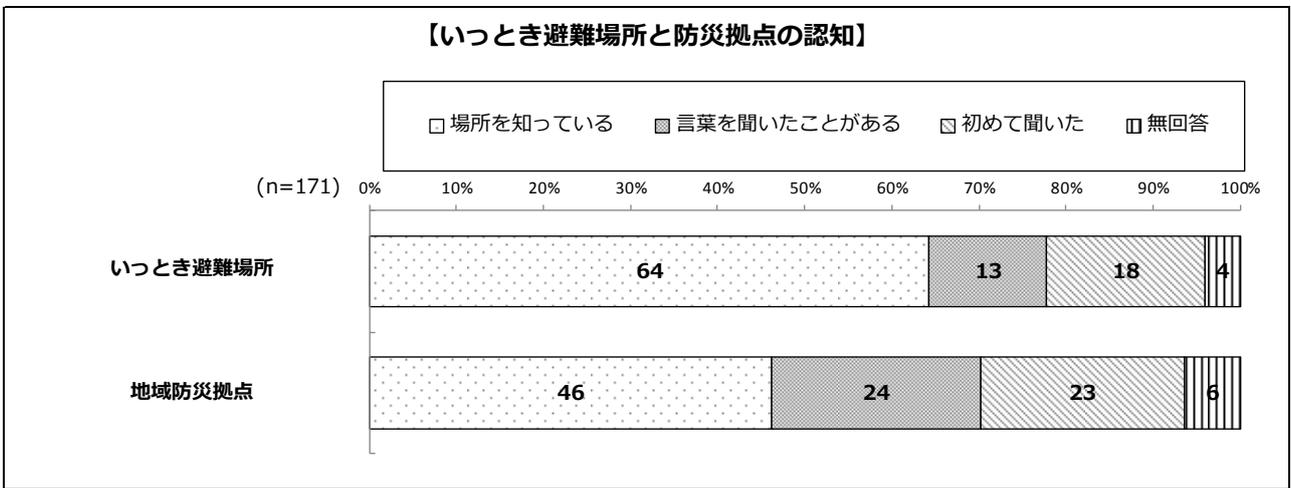
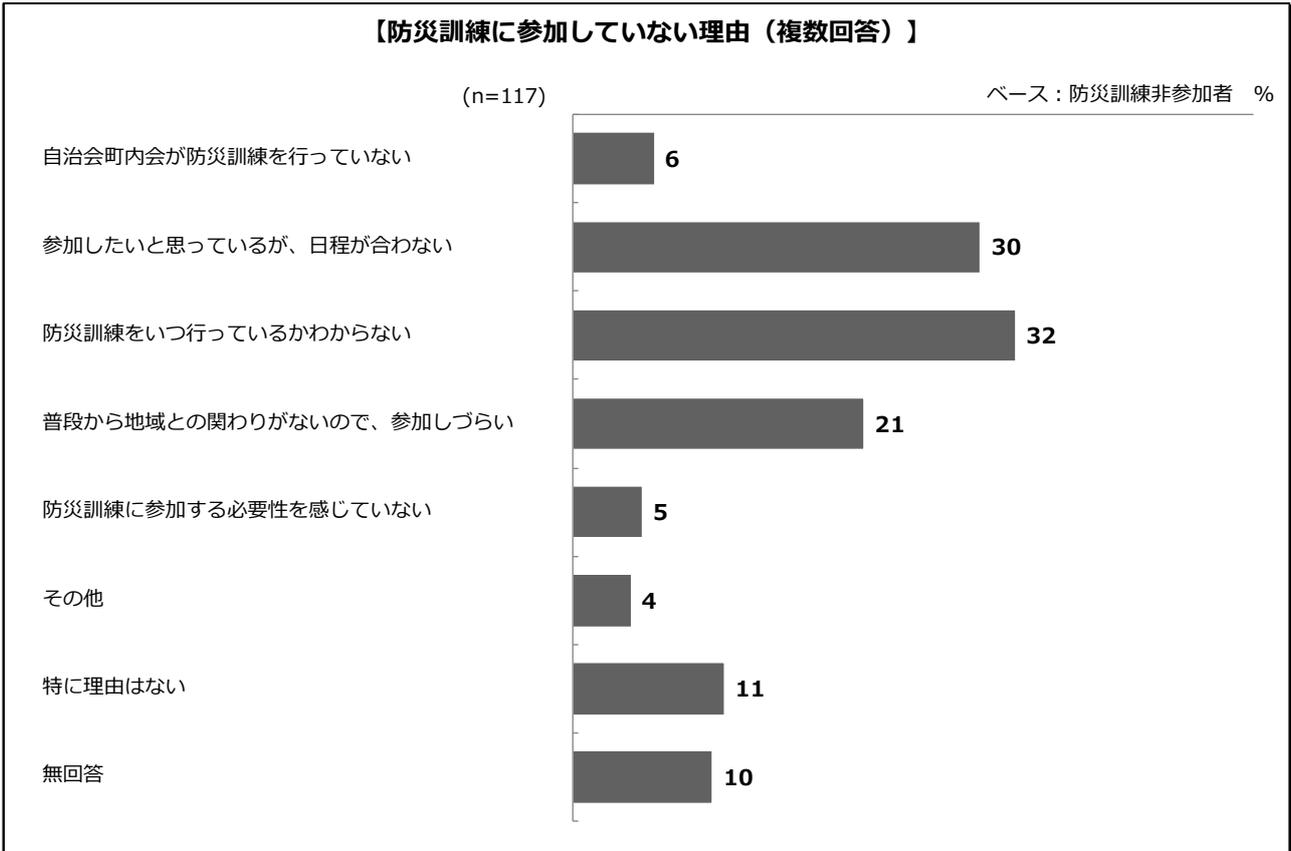
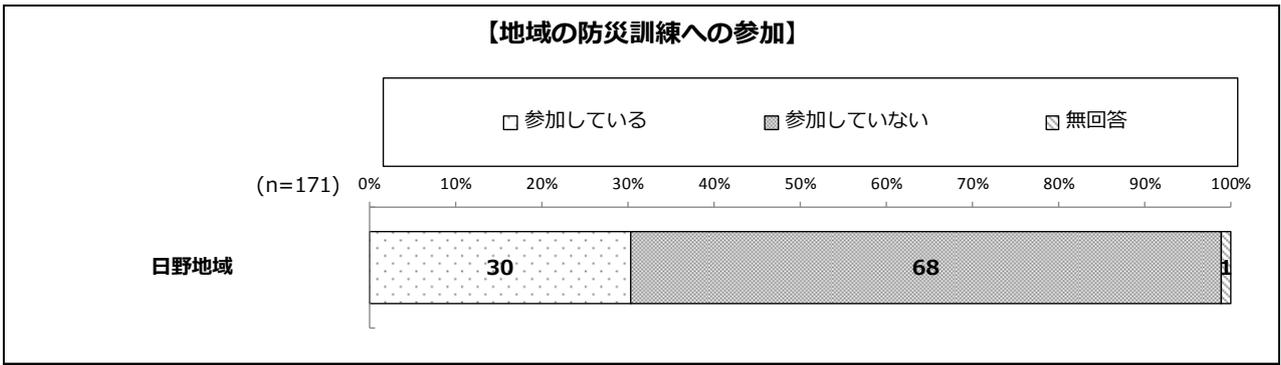
地域名	人数	割合	町丁名	人数
上大岡地域	93人	5%	上大岡西1～3丁目	34人
			上大岡東1～3丁目	59人
大久保最戸地域	141人	8%	大久保1～3丁目	98人
			最戸1・2丁目	43人
笹下地域	187人	11%	港南1～3丁目	99人
			港南4～6丁目	77人
			港南中央通	11人
日下地域	113人	7%	笹下1～4丁目	64人
			笹下5～7丁目	49人
日野地域	171人	10%	日野5～9丁目	77人
			日野中央1～3丁目	50人
			日野南1～4丁目	44人
日野第一地域	63人	4%	日野1～4丁目	63人
港南台地域	202人	12%	港南台1～4丁目	92人
			港南台5～9丁目	110人
永野地域	140人	8%	上永谷1～3丁目	65人
			上永谷4～6丁目	38人
			上永谷町	2人
			丸山台1～4丁目	35人
野庭団地・野庭住宅地域	173人	10%	野庭町	173人
下永谷地域	97人	6%	下永谷1～3丁目	42人
			下永谷4～6丁目	55人
永谷地域	62人	4%	東芹が谷	16人
			東永谷1～3丁目	46人
芹が谷地域	110人	6%	芹が谷1～5丁目	110人
ひぎり地域	74人	4%	日限山1～4丁目	74人
日野南地域	46人	3%	日野南5～7丁目	46人
無回答	22人	1%	無回答	22人
合計	1,694人	100%	合計	1,694人

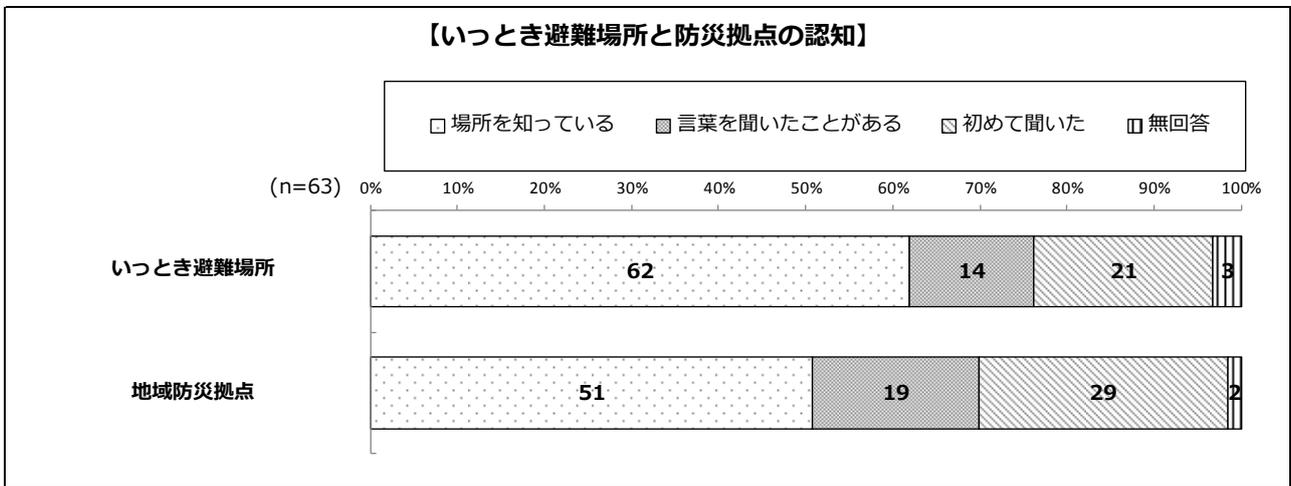
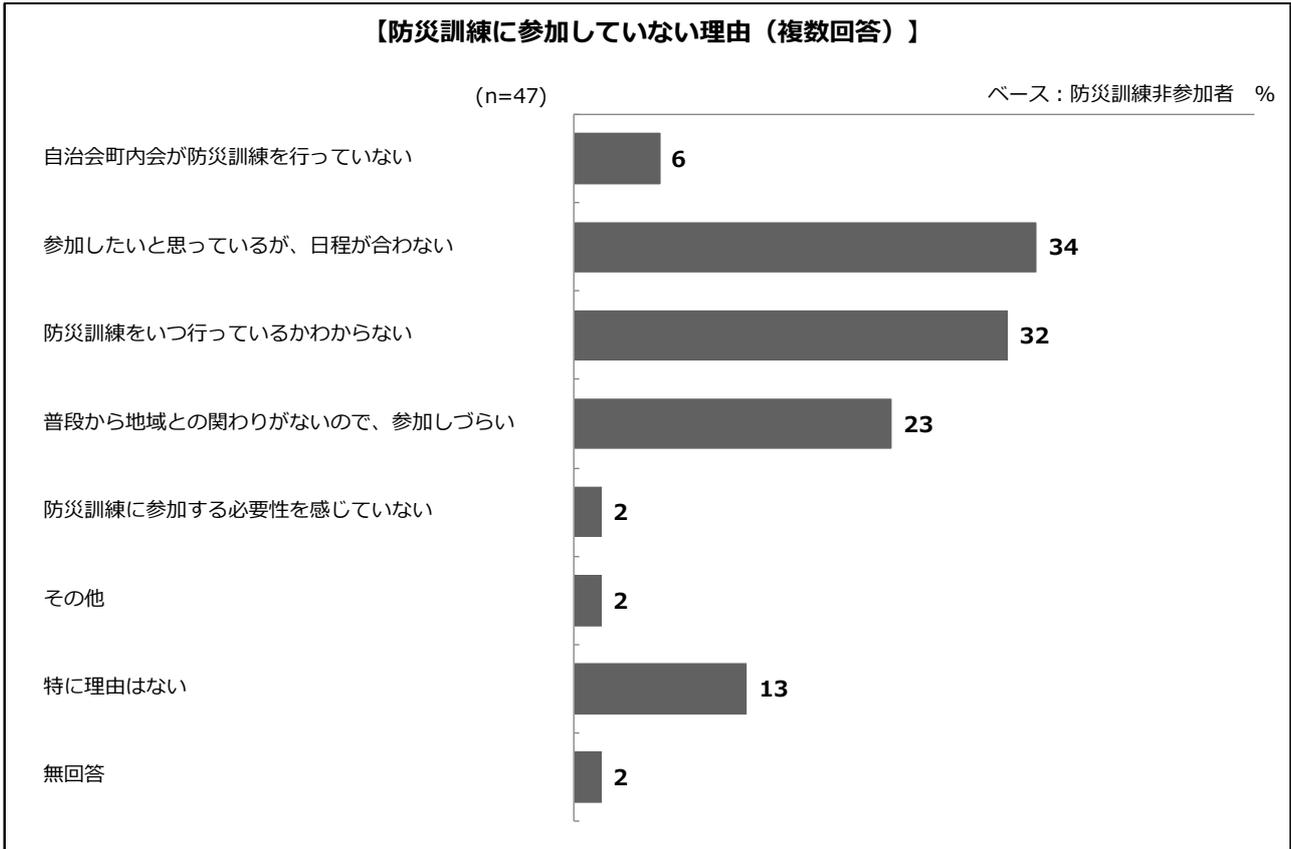
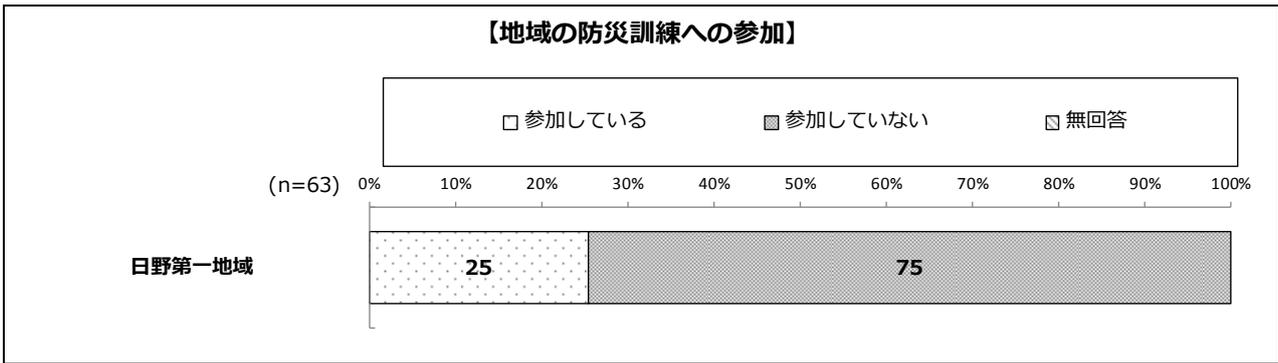


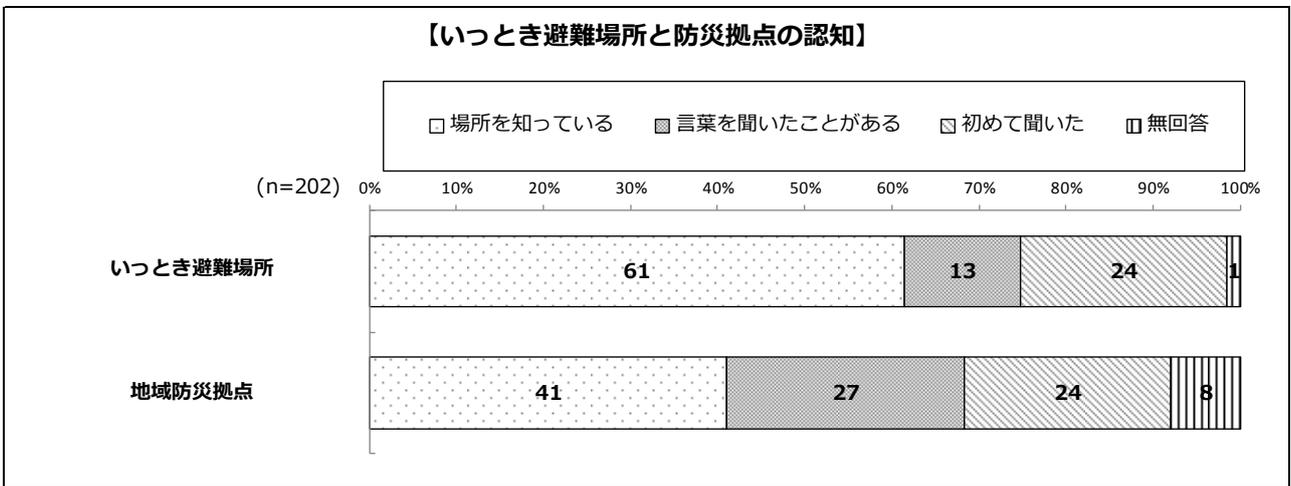
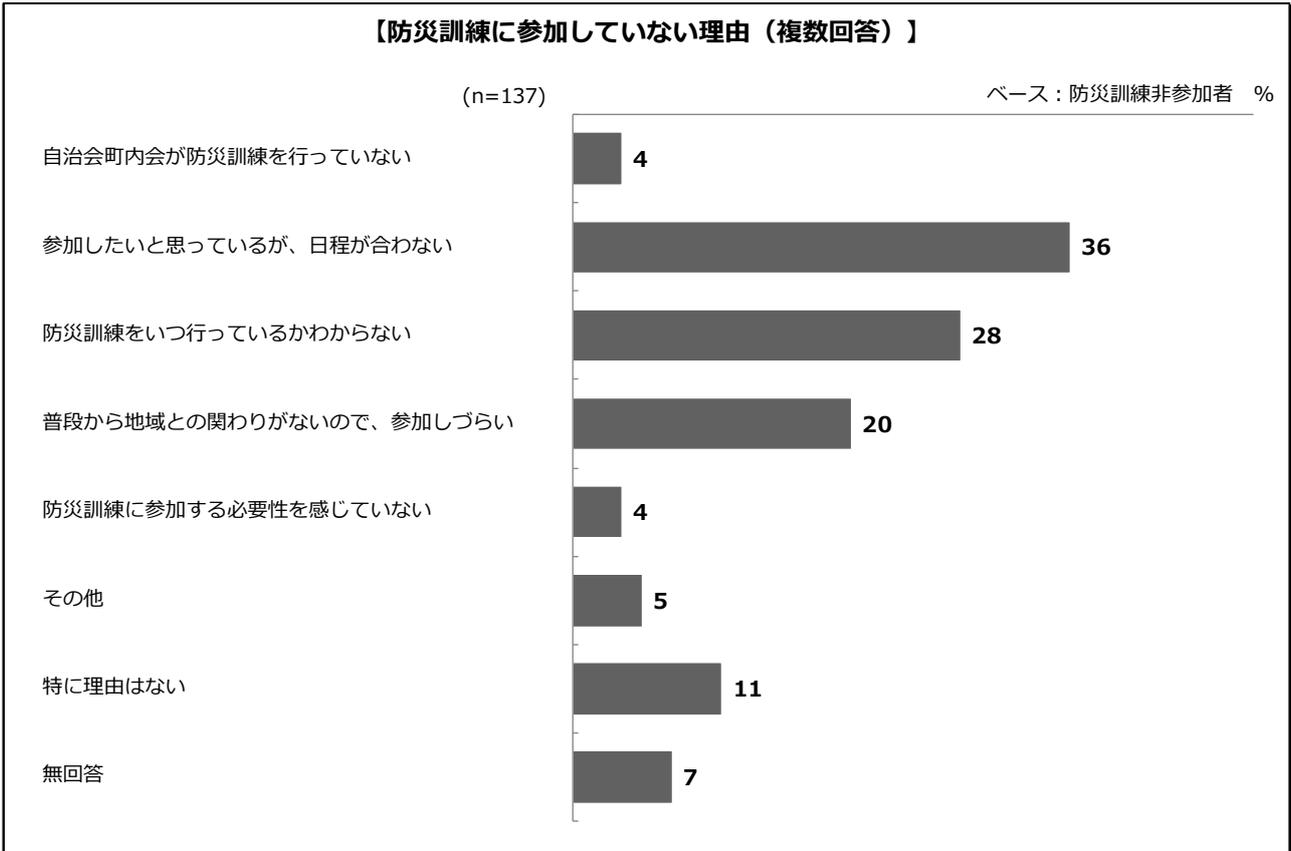
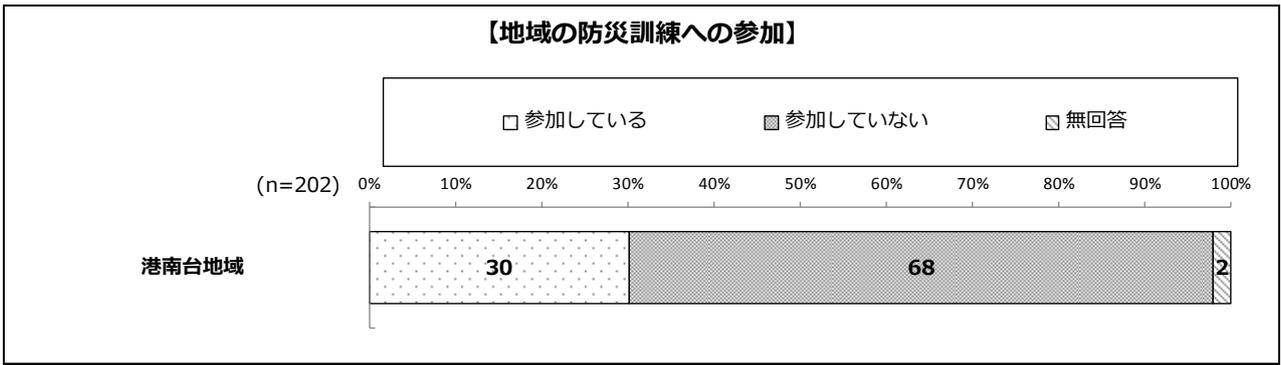


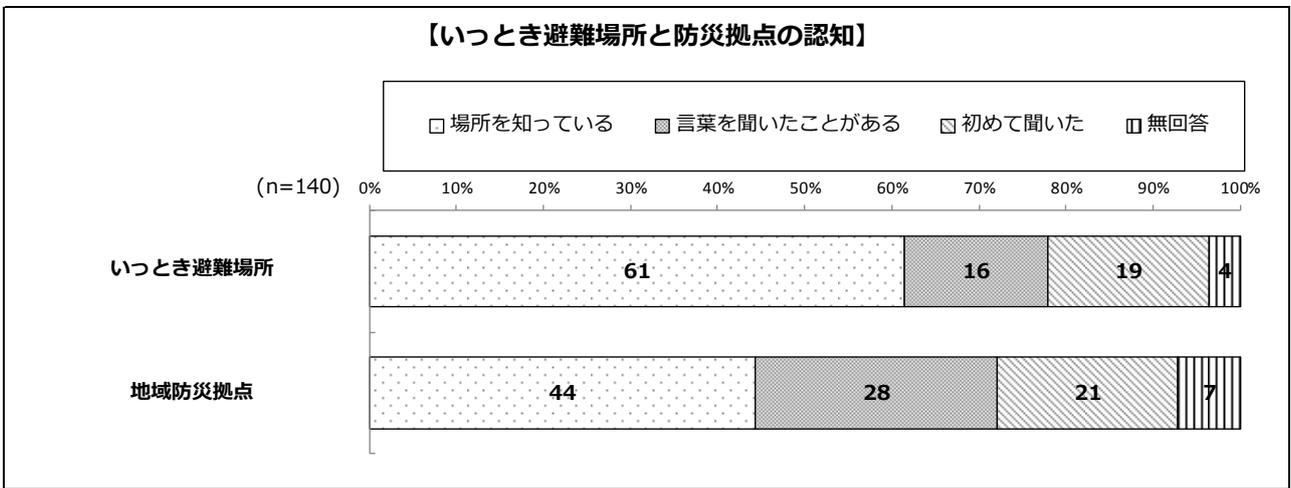
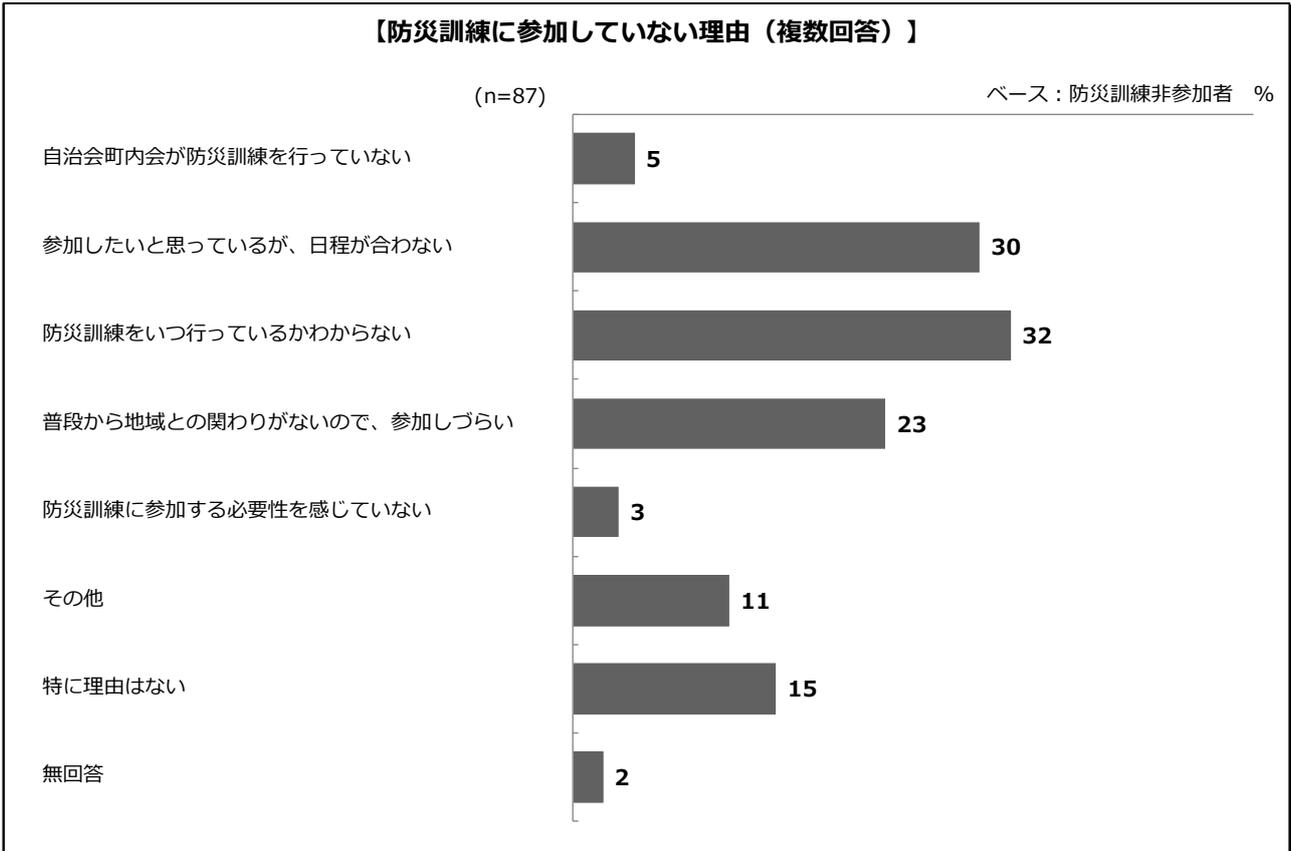
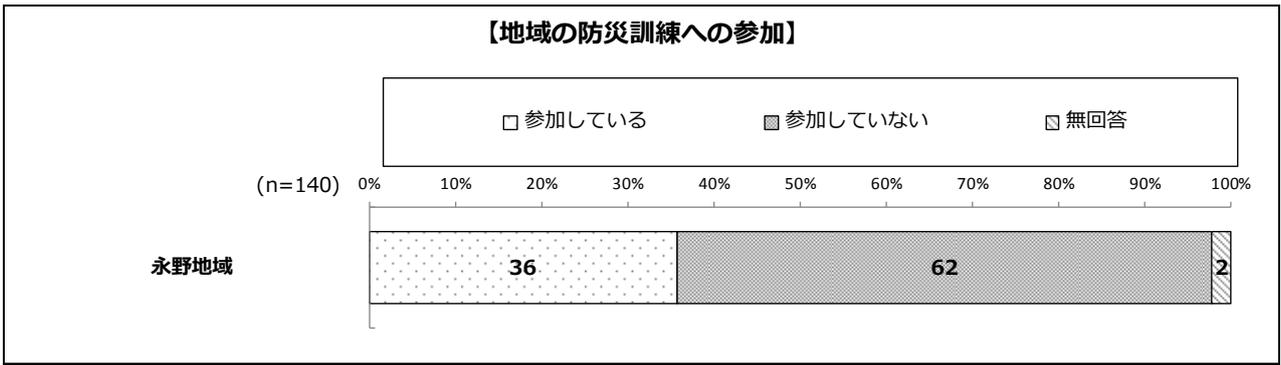










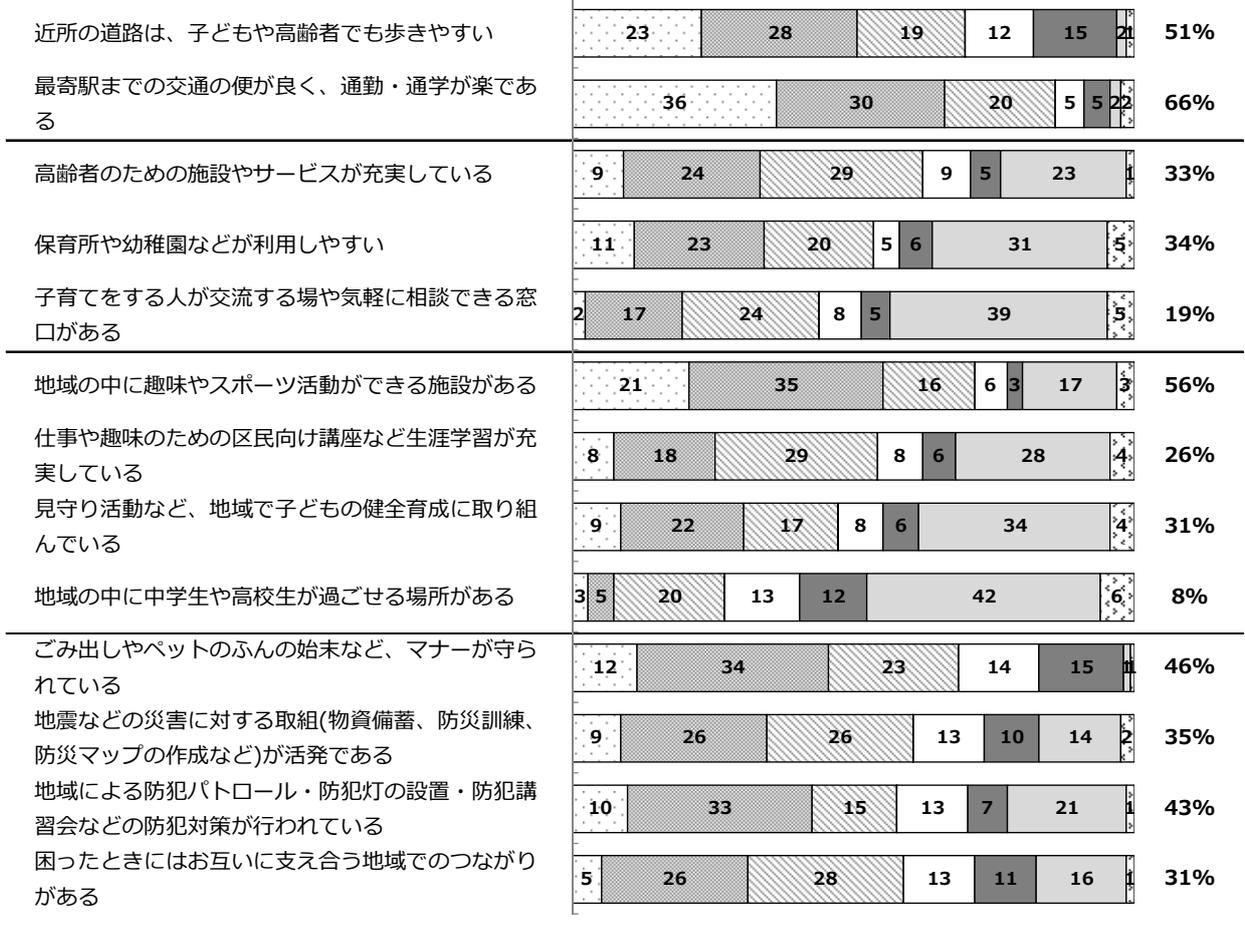


野庭団地・野庭住宅地域

【生活環境全般に対して感じていること】

- | | | |
|---|--|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> そう思う | <input checked="" type="checkbox"/> どちらかというと思う | <input type="checkbox"/> そう思う+ |
| <input checked="" type="checkbox"/> どちらともいえない | <input type="checkbox"/> どちらかというと思わない | <input type="checkbox"/> どちらかとい |
| <input type="checkbox"/> そう思わない | <input type="checkbox"/> わからない | <input type="checkbox"/> うとそう思う |
| <input type="checkbox"/> 無回答 | | |

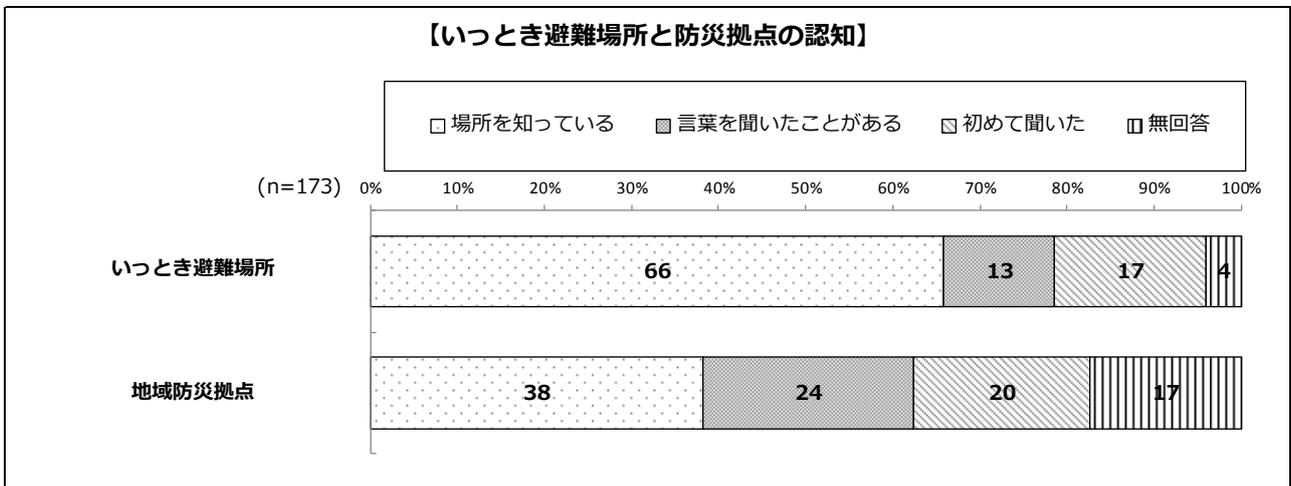
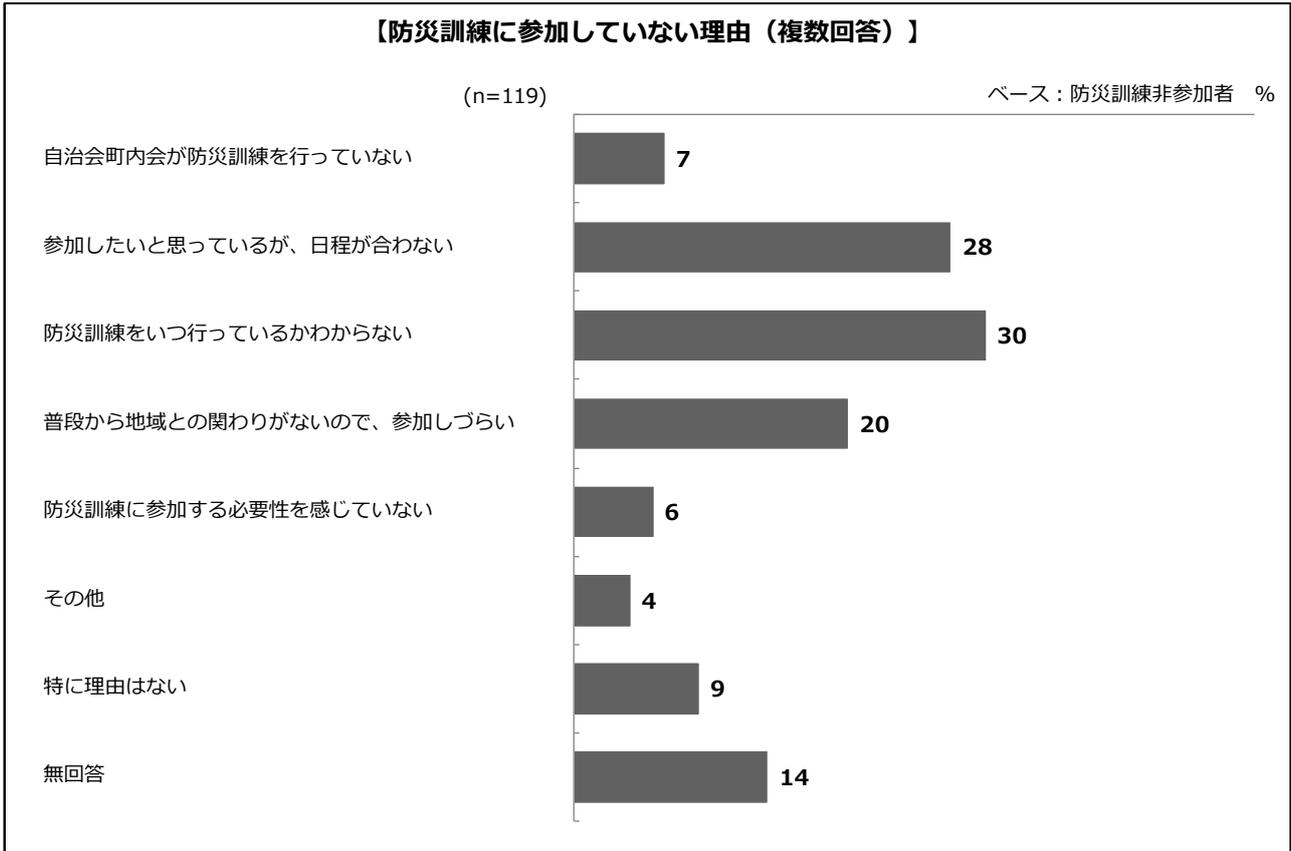
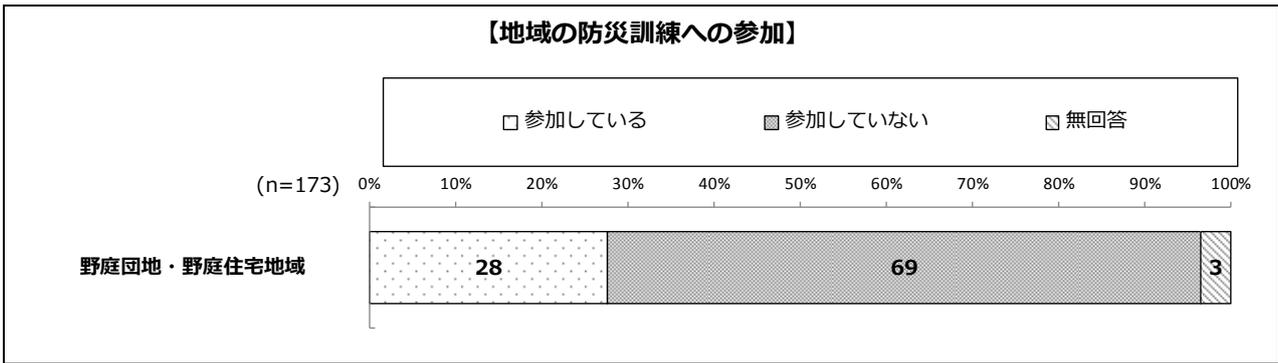
(n=173) 0% 20% 40% 60% 80% 100%

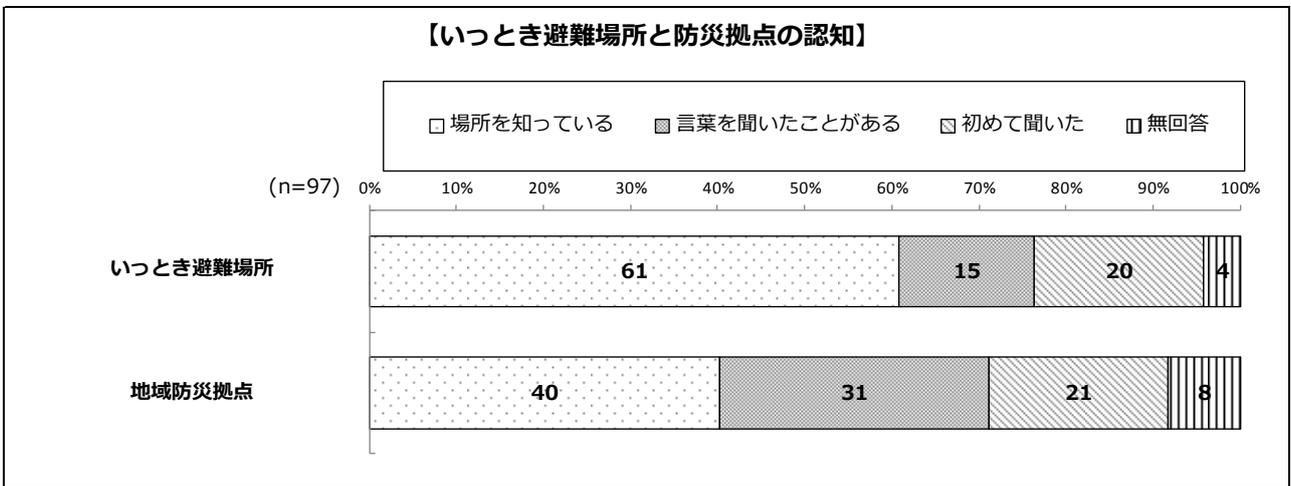
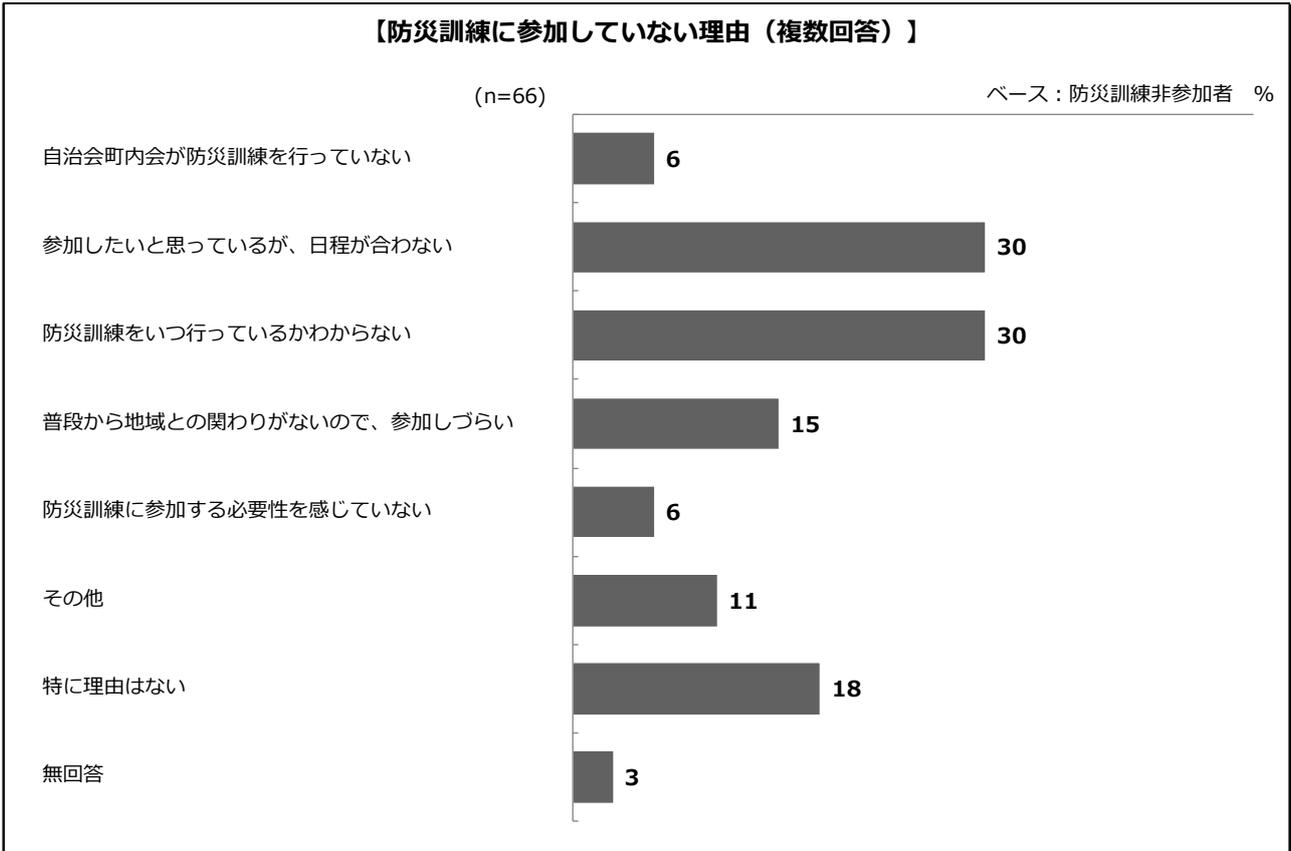
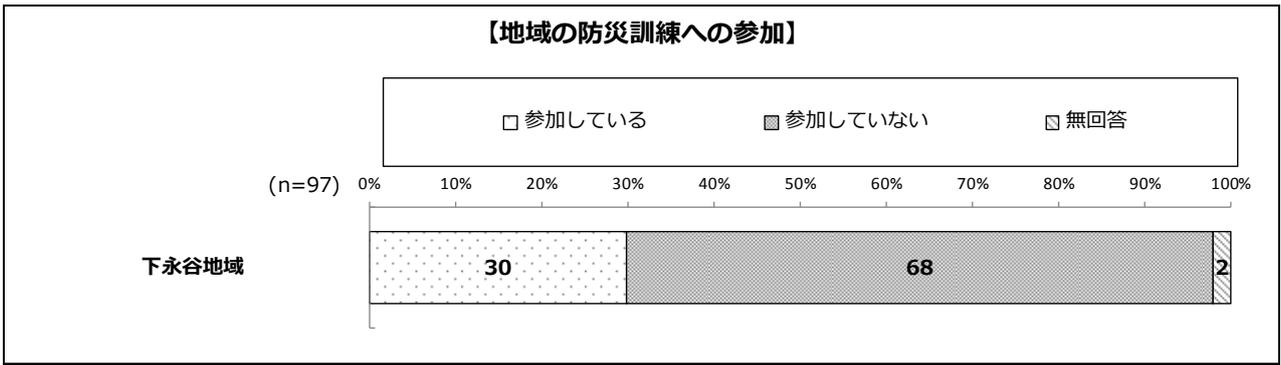


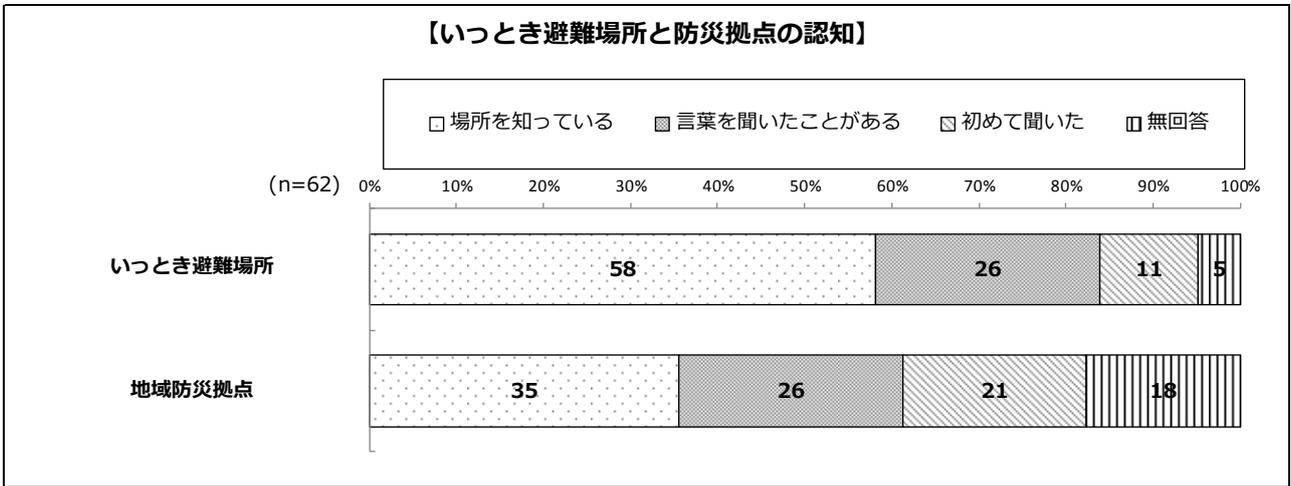
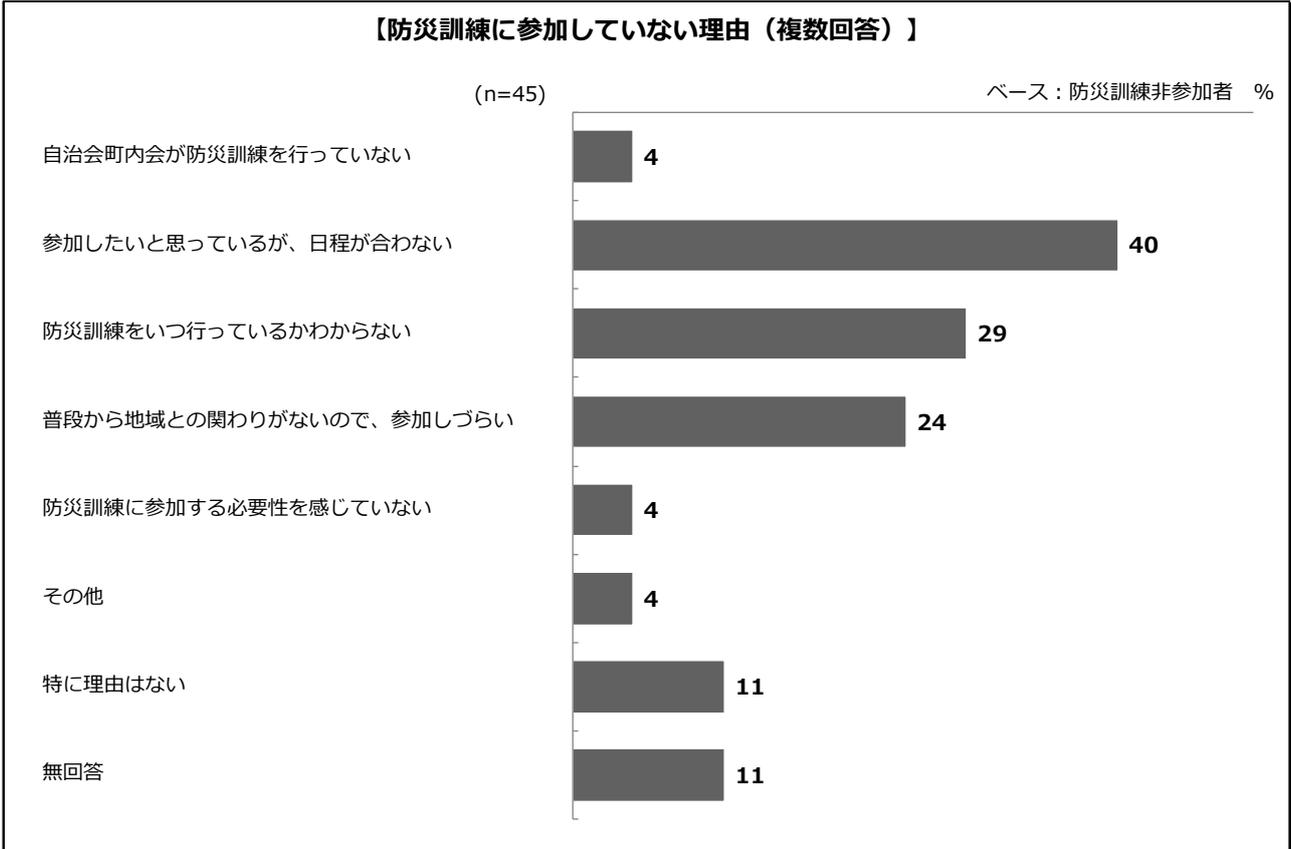
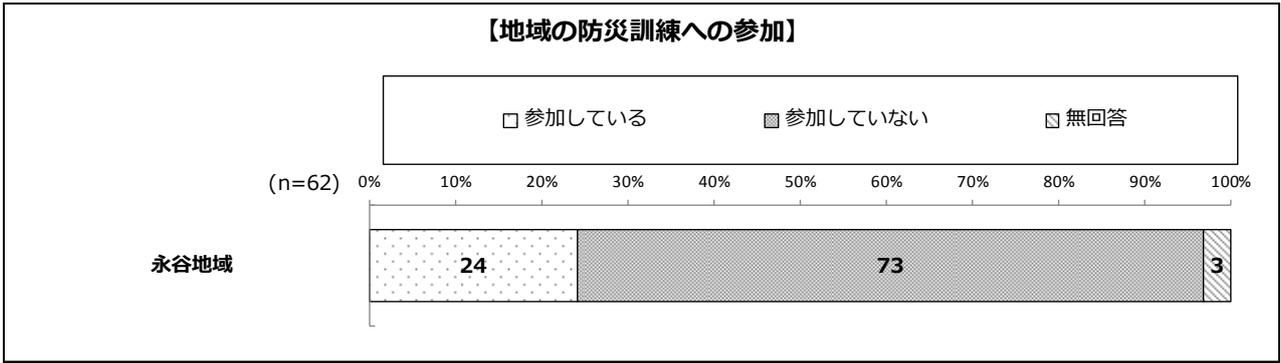
【地域活動・災害対策の主な項目で意識・関心の高いこと（上位5項目）】

項目	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
地域活動	充実すべき活動 (n=173) 31%	地域の交通安全や防災 防犯などの活動 24%	近所の高齢者や障害者の見守りや介助 19%	高齢者や障害者の施設などでのボランティア活動 16%	資源回収やリサイクル活動 15%
	地域コミュニティに必要なこと (n=173) 35%	自分のできる範囲で気軽にボランティアとして参加できる仕組みづくり 28%	住民同士が気軽に集まったり交流できる機会の充実 25%	地域の情報を得たり発信できたりする仕組みづくり 24%	自治会町内会、子供会、シルバークラブなど既存の地域団体の活動支援 18%
	地域コミュニティでの困り事や心配事 (n=173) 27%	ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い 25%	困ったときに頼ったり、相談したりできる人が近くにいない 24%	地域の中で住民同士が交流する機会が少ない ほとんどない 14%	地域防犯や防災などの力が弱まり、治安が悪くなる なっている 12%
災害対策	自治会町内会が進めるべき取組 (n=173) 56%	避難場所についての啓発 43%	*声かけや安否確認の方法など、ご近所や地域の方とのルールづくり *自治会町内会での備蓄 42%	食料や飲み水など、家庭での備蓄についての啓発 32%	災害時におけるライフラインに関する講習 16%
	参加してみたい防災訓練 (n=173) 27%	AEDや三角巾の取扱いなどを習得する救急 救護訓練 20%	火災発生時における延焼防止訓練 16%	*地域のイベントと連携した訓練 *地域特性を把握するためのまち歩きや防災マップ作り 14%	子どもが参加したくなるような訓練

※同率の項目には「*」印をつけています。





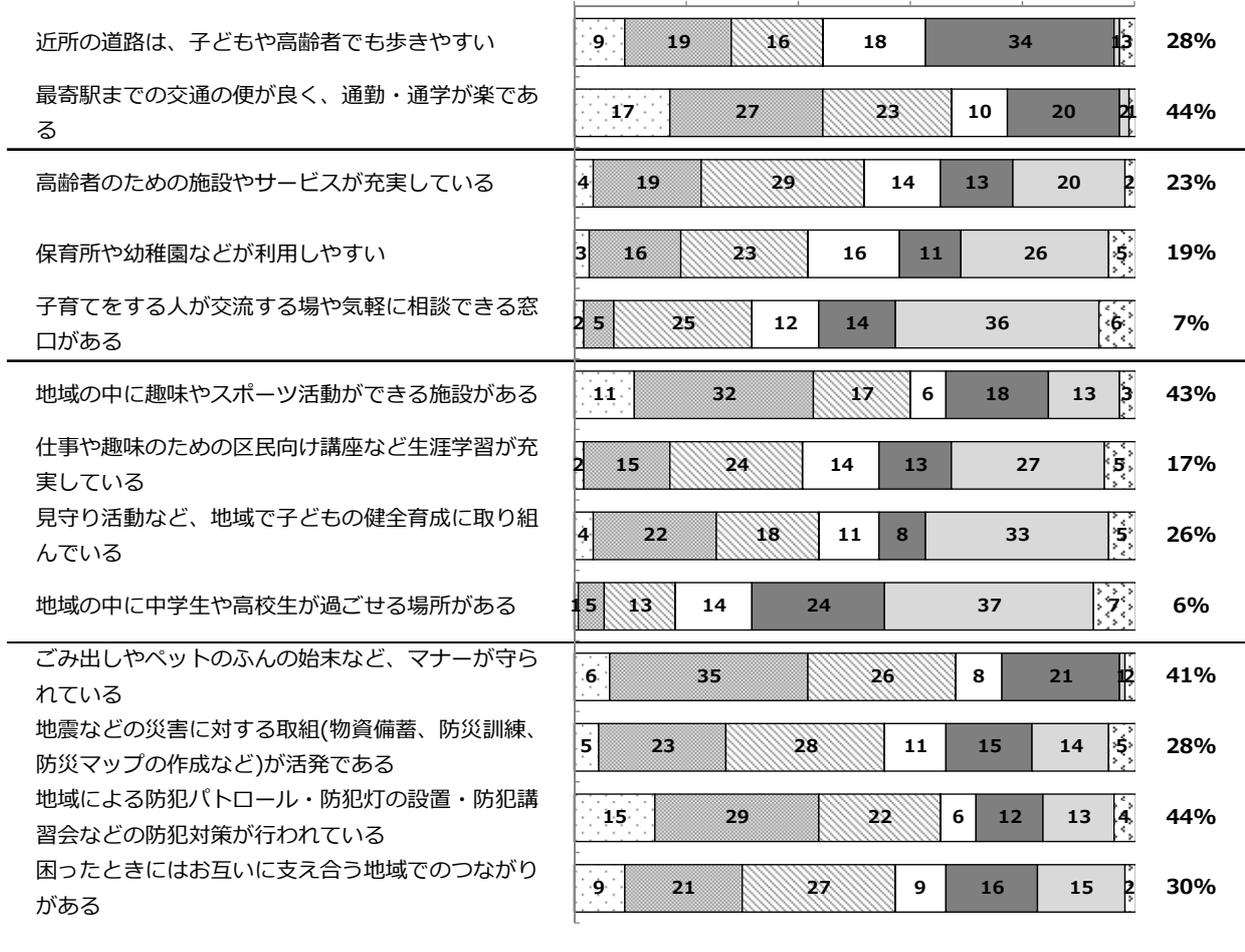


芹が谷地域

【生活環境全般に対して感じていること】

- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- 無回答
- どちらかというと思う
- どちらかというと思わない
- わからない

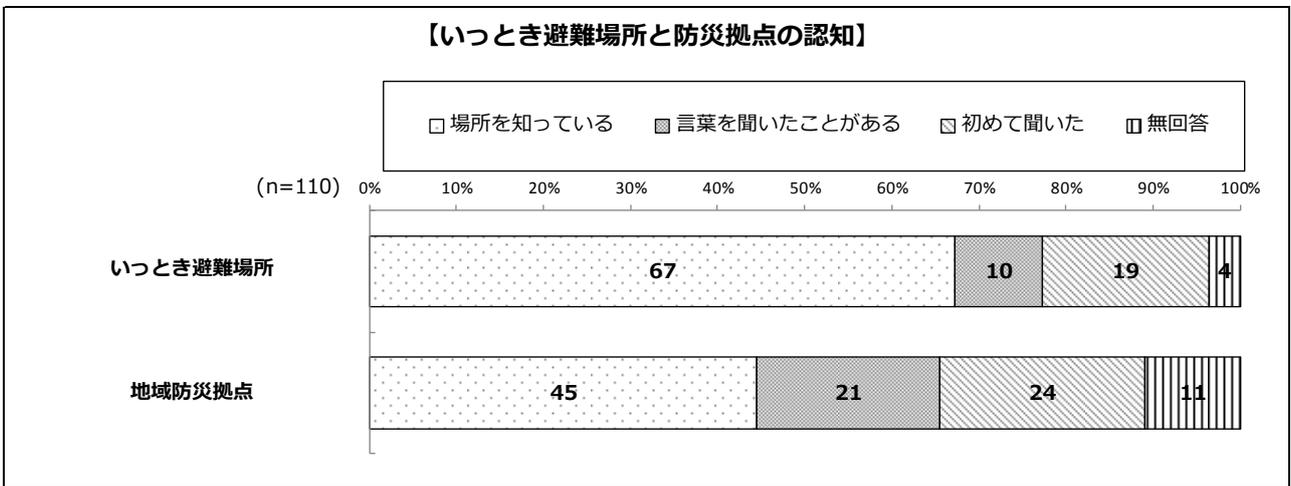
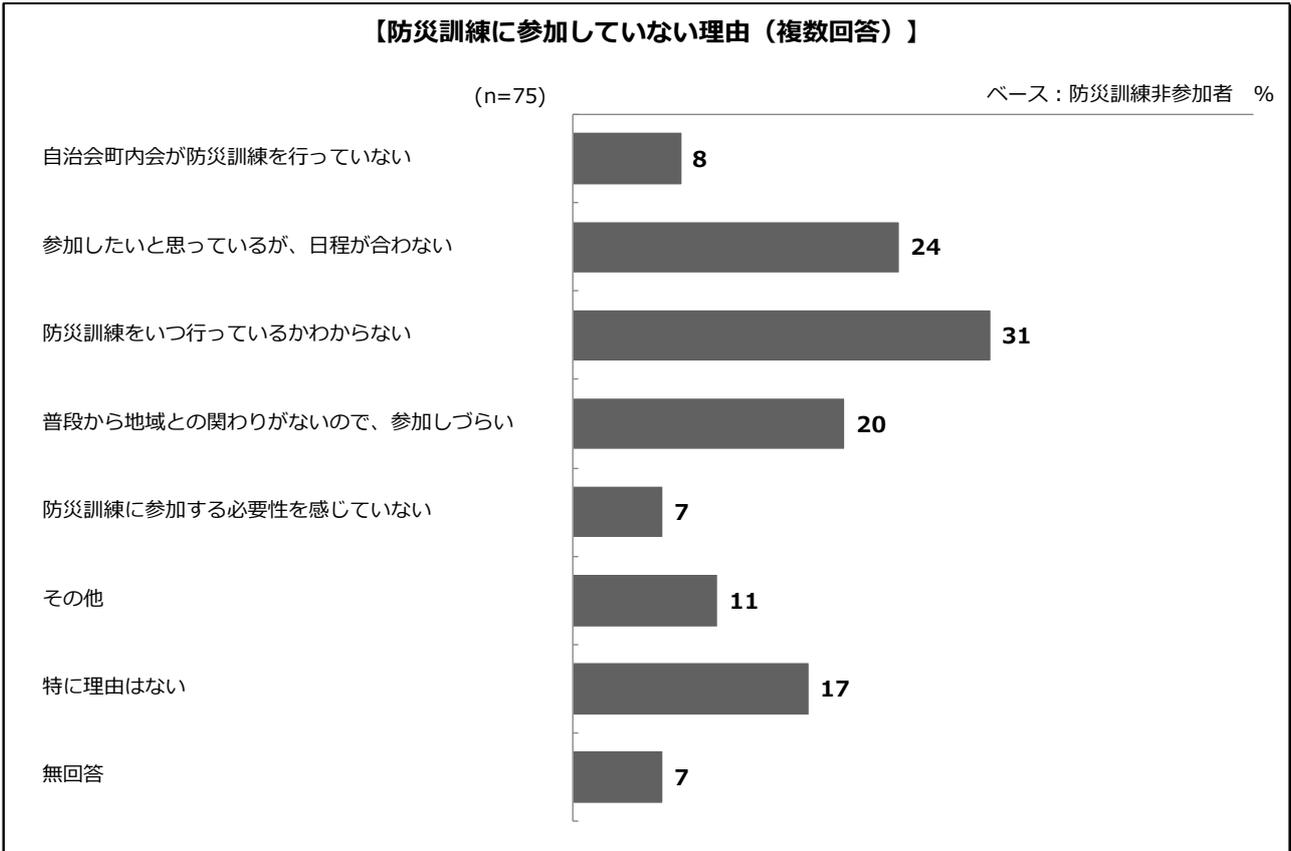
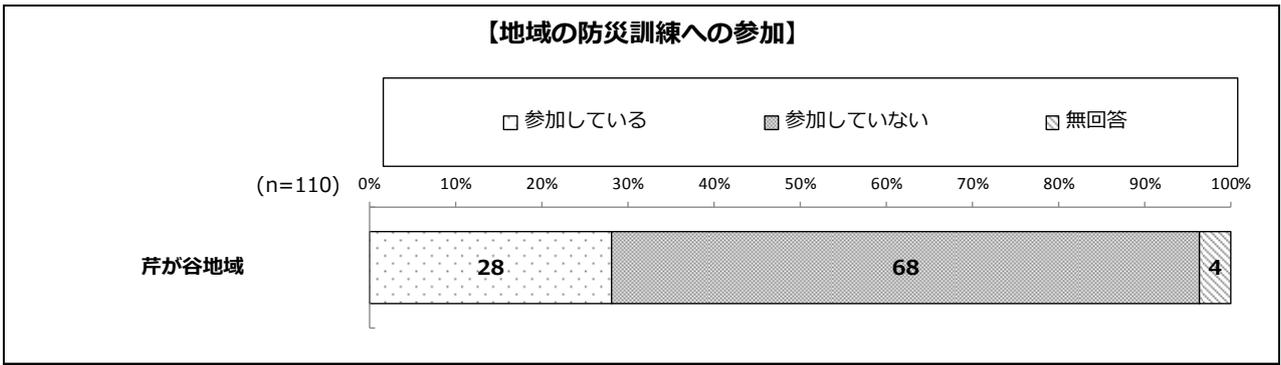
(n=110) 0% 20% 40% 60% 80% 100%



【地域活動・災害対策の主な項目で意識・関心の高いこと（上位5項目）】

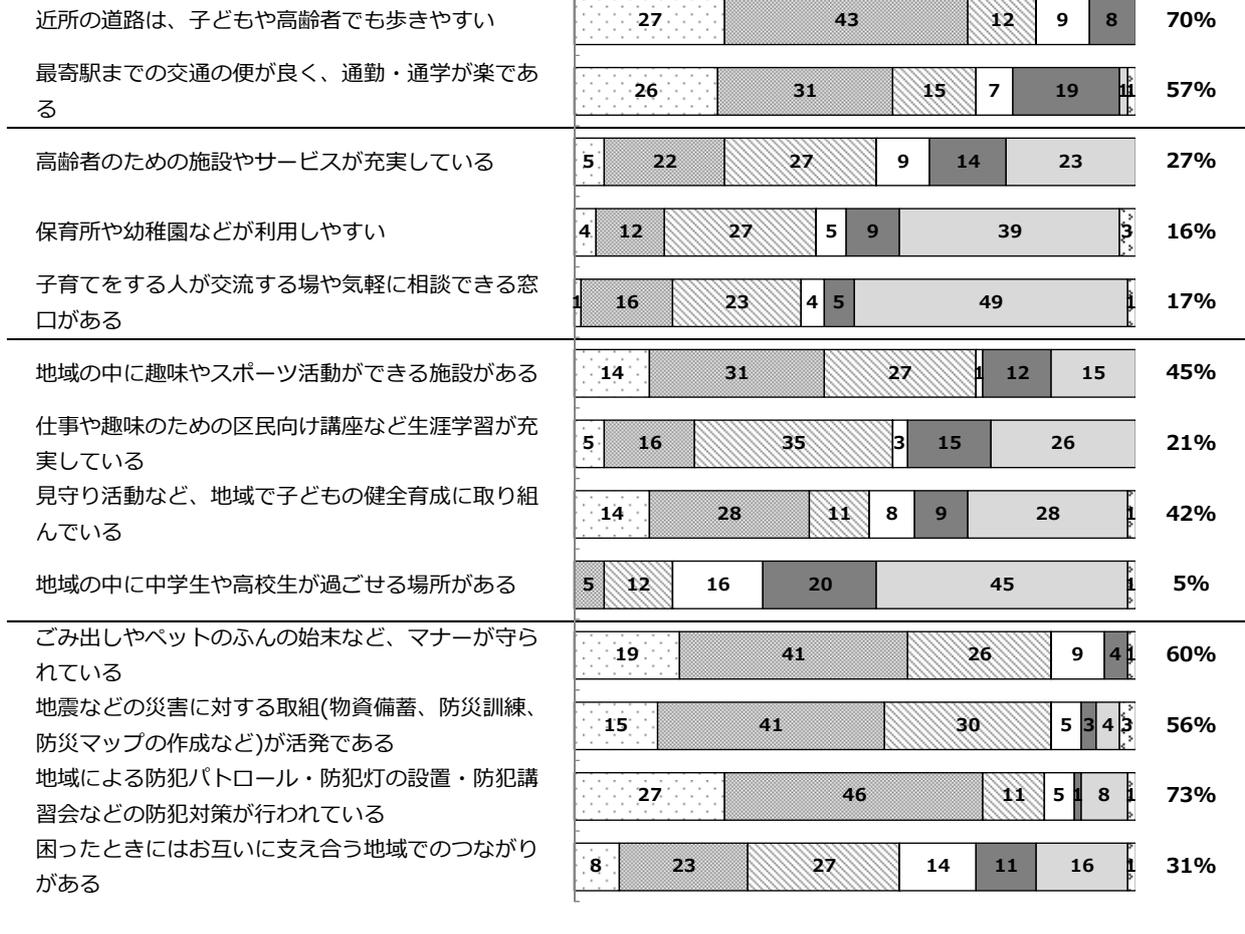
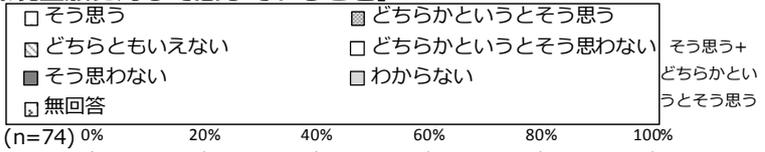
項目	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
地域活動					
充実すべき活動 (n=110)	地域の交通安全や防災 防犯などの活動 35%	近所の高齢者や障害者の見守りや介助 34%	近所の子どもの見守りや預かり 23%	資源回収やリサイクル活動 20%	身近な道路 公園 川などの清掃 美化活動 19%
地域コミュニティに必要なこと (n=110)	自分のできる範囲で気軽にボランティアとして参加できる仕組みづくり 33%	住民同士が気軽に集まったり交流できる機会の充実 27%	自治会町内会、子供会、シルバークラブなど既存の地域団体の活動支援 26%	地域の情報を得たり発信できたりする仕組みづくり 25%	地域の魅力を再発見できるまち歩きなど、地域に愛着をもってもらえるような活動 16%
地域コミュニティでの困り事や心配事 (n=110)	ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い 29%	地域防犯や防災などの力が弱まり、治安が悪くなる なっている) 21%	地域の中で住民同士が交流する機会が少ない ほとんどない 20%	*地域の情報を得られない 入手する方法がわからない *困ったときに頼ったり、相談したりできる人が近くにいない 10%	
災害対策					
自治会町内会が進めるべき取組 (n=110)	避難場所についての啓発 62%	自治会町内会での備蓄 57%	食料や飲み水など、家庭での備蓄についての啓発 50%	声かけや安否確認の方法など、ご近所や地域の方とのルールづくり 45%	災害時におけるライフラインに関する講習 30%
参加してみたい防災訓練 (n=110)	AEDや三角巾の取扱いなどを習得する救急 救護訓練 34%	火災発生時における延焼防止訓練 26%	地域特性を把握するためのまち歩きや防災マップ作り 21%	炊き出し訓練 20%	ロープやジャッキなどを使用した救助 救出訓練 16%

※同率の項目には「*」印をつけています。



ひざり地域

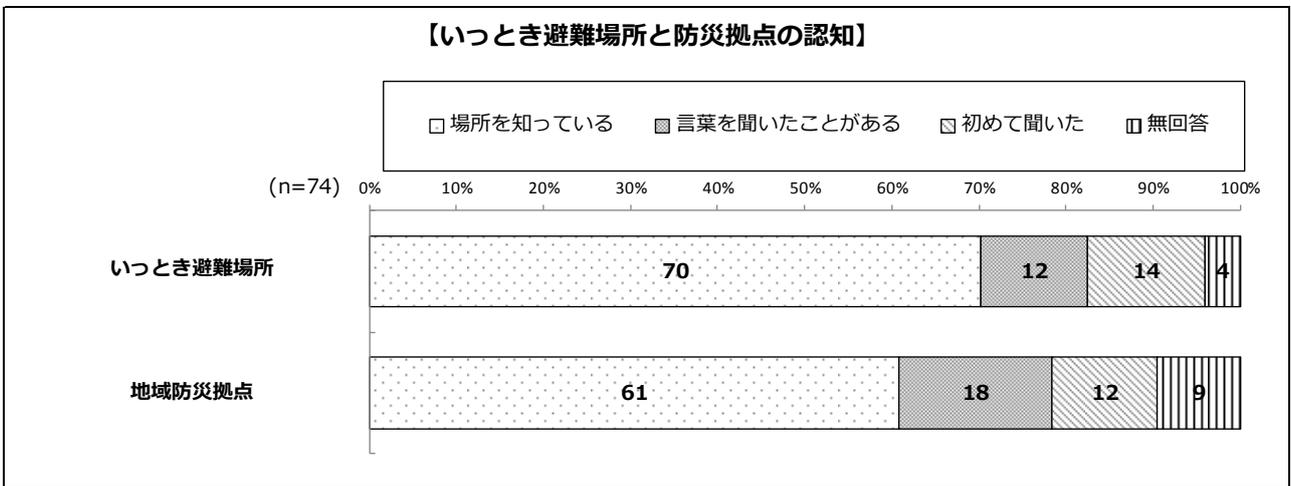
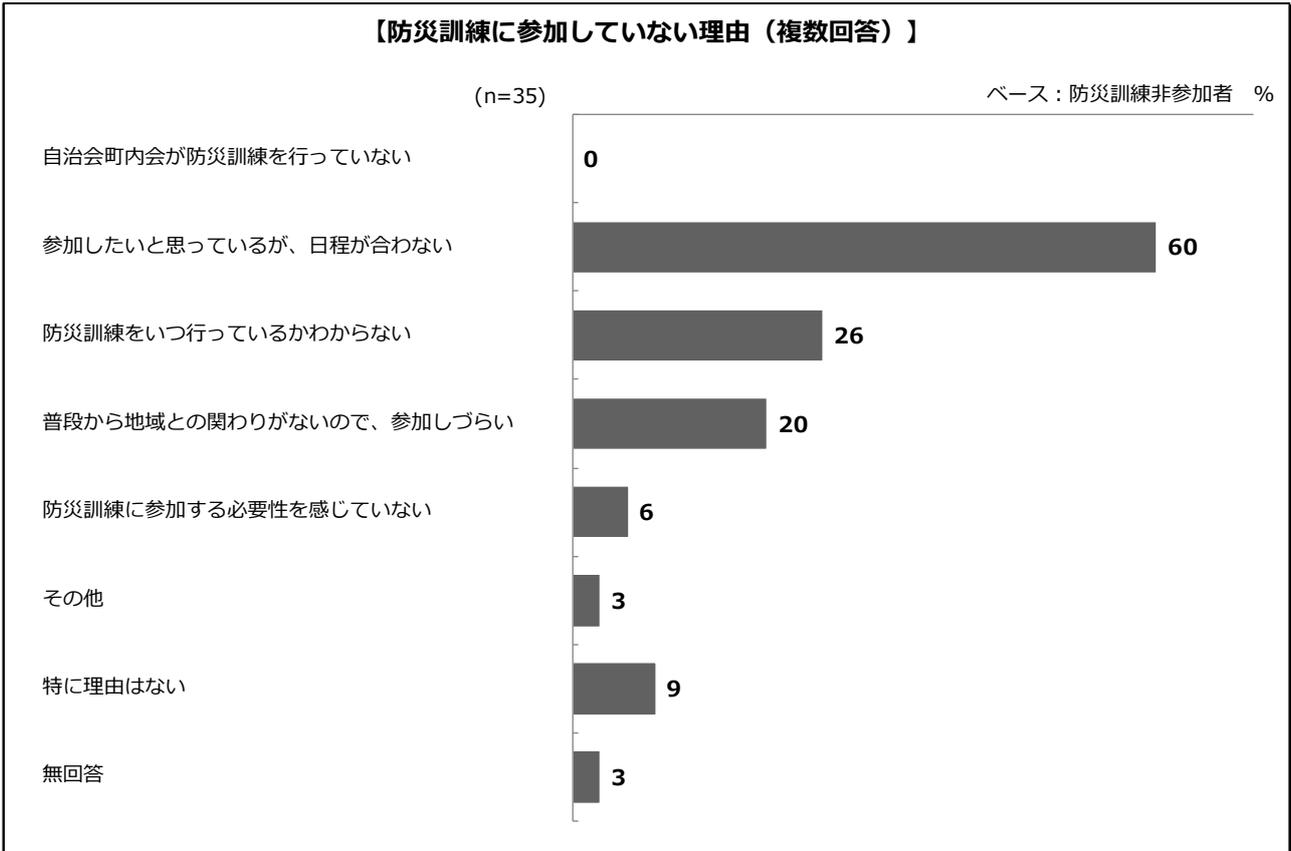
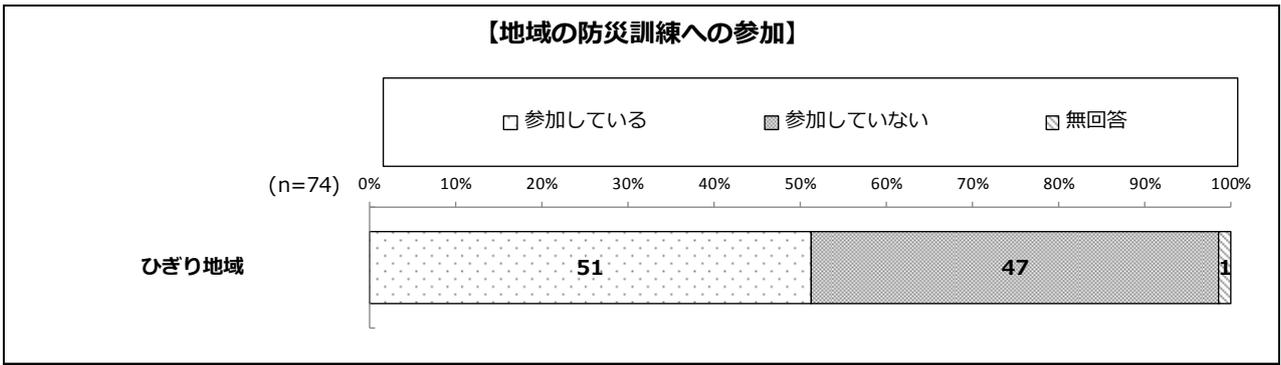
【生活環境全般に対して感じていること】

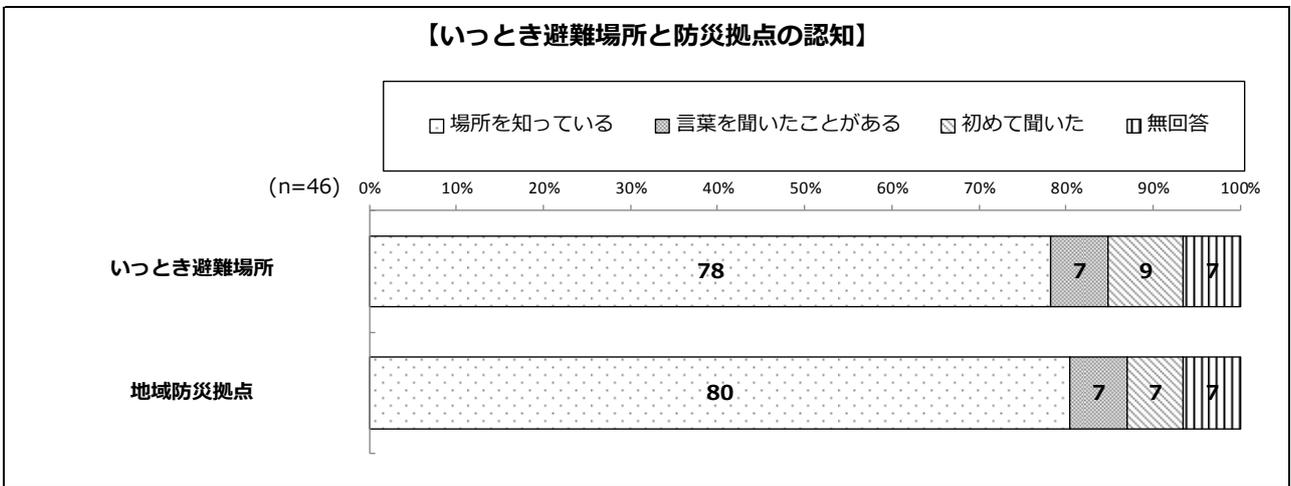
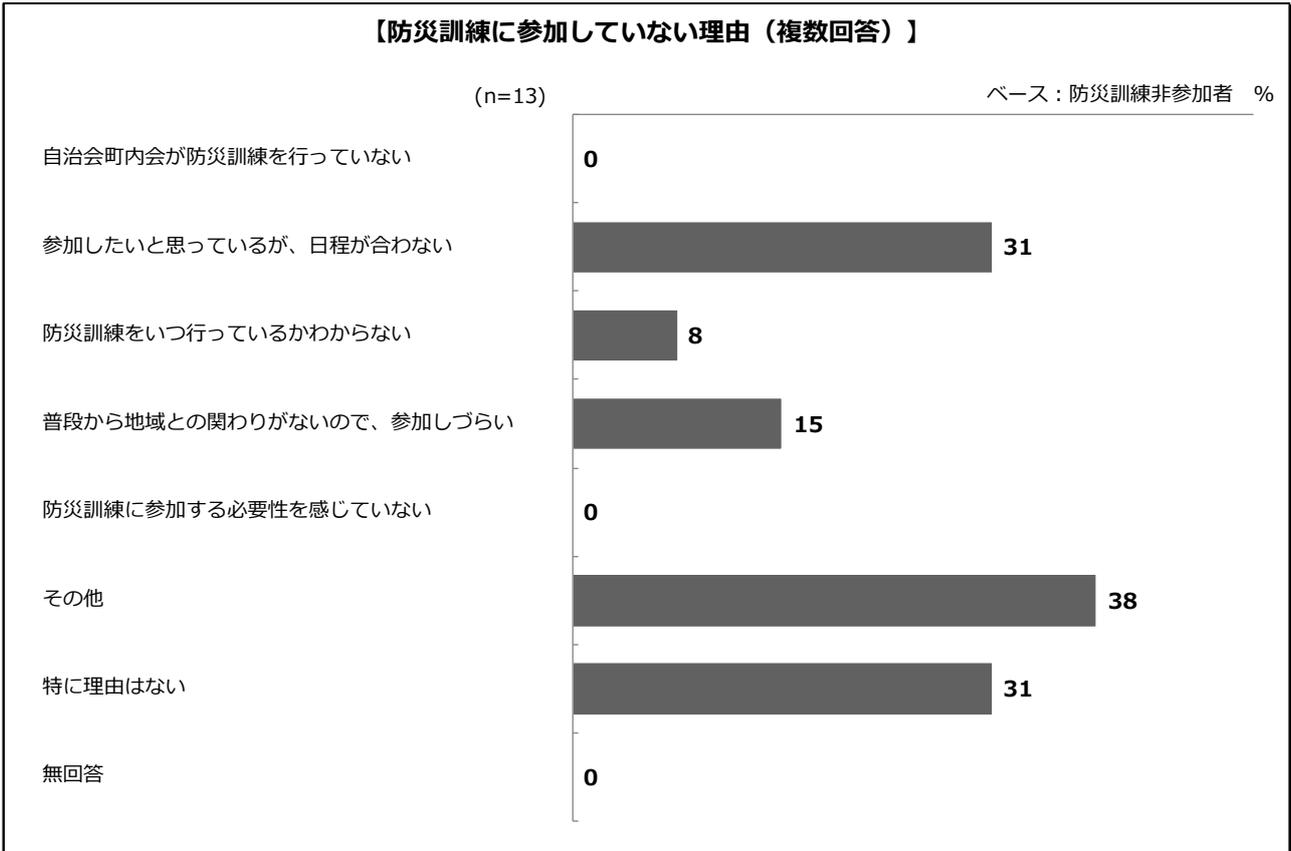
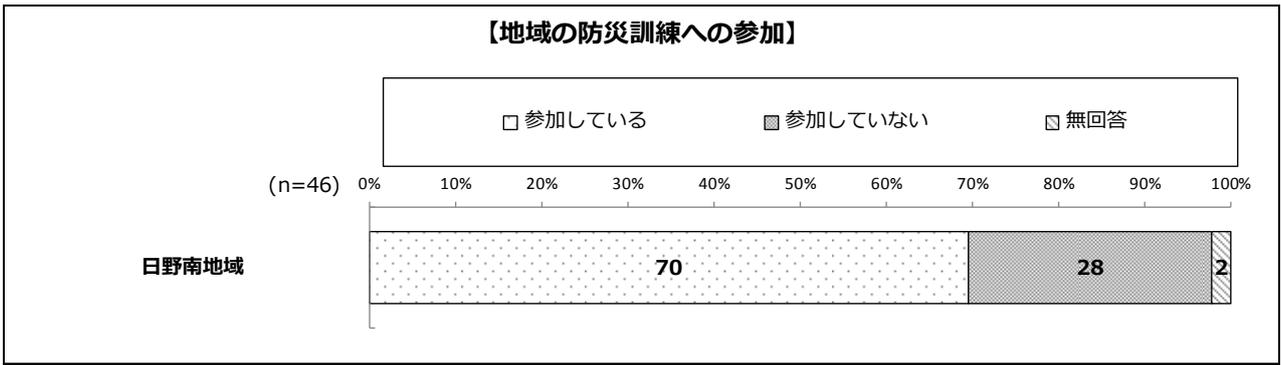


【地域活動・災害対策の主な項目で意識・関心の高いこと（上位5項目）】

項目	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
地域活動					
充実すべき活動 (n=74)	地域の交通安全や防災 防犯などの活動 35%	*身近な道路 公園 川などの清掃 美化活動 *子育てサークル、高齢者サークル、スポーツ、趣味などのサークル活動 31%	高齢者や障害者の施設などでのボランティア活動 27%	*資源回収やリサイクル活動 *近所の高齢者や障害者の見守りや介助 26%	
地域コミュニティに必要なこと (n=74)	自分のできる範囲で気軽にボランティアとして参加できる仕組みづくり 31%	住民同士が気軽に集まったり交流できる機会の充実 24%	自治会町内会、子供会、シルバークラブなど既存の地域団体の活動支援 23%	地域活動に参加するきっかけとなる趣味やボランティア入門講座などの充実 20%	地域の情報を得たり発信できたりする仕組みづくり 19%
地域コミュニティでの困り事や心配事 (n=74)	地域の中で住民同士が交流する機会が少ない ほとんどない 26%	困ったときに頼ったり、相談したりできる人が近くにいない 19%	地域防犯や防災などの力が弱まり、治安が悪くなる なっている) 14%	*地域の情報を得られない 入手する方法がわからない *ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い 9%	
災害対策					
自治会町内会が進めるべき取組 (n=74)	避難場所についての啓発 61%	食料や飲み水など、家庭での備蓄についての啓発 53%	声かけや安否確認の方法など、ご近所や地域の方とのルールづくり 46%	災害時におけるライフラインに関する講習 42%	*自治会町内会での備蓄 *防災訓練参加への積極的な呼びかけ 38%
参加してみたい防災訓練 (n=74)	AEDや三角巾の取扱いなどを習得する救急 救護訓練 36%	火災発生時における延焼防止訓練 35%	炊き出し訓練 27%	防災に関する講話 24%	地域特性を把握するためのまち歩きや防災マップ作り 20%

※同率の項目には「*」印をつけています。







港南区地域活動応援ロゴマーク

発行日：平成 28 年 1 月

発 行：港南区総務部区政推進課企画調整係

〒233-0004 横浜市港南区港南中央通 10-1 電 話：045-847-8327 FAX:045-841-7030

港南区ホームページ：<http://www.city.yokohama.lg.jp/konan/>

港南区区民意識調査のページ：<http://www.city.yokohama.lg.jp/konan/isikityosa/manzoku/>